

bulletin

目次

特集：JIAの周縁

JIAは危機的状況	2
座談会：若手建築家とJIA	
出席者：荒木 毅・亀井正浩・宮 晶子・吉川博行	4
若手建築家はJIAに何を求めているか	10
市民は建築家に何を求めているか	11
ファイナンシャルビジネスのすすめ—4（最終回） 田中 修一	14
選挙公報	17
丸ビルは残らなかったけれど	大澤 秀雄 18
保存問題長野大会	依田 政司 19
一つの作品に一つのドラマ	向川 優子 20
指揮者大友直人氏をお迎えして	22
こんな本読みました『患者に選ばれる病院づくり』	23
勝手連的街づくり	青木 仁 24
建築家のアカウントビリティ	坂野 茂 25
紫色のガラスボール	柳 雅夫 26
賛助会員つうしん：Aグループ・Bグループ	27
設計監理の業務と契約	齊藤 智美 28
アーキテクツ・ガーデン2002建築祭・報告	30
地域会だより：千葉・神奈川・長野・新潟	38
活動日誌・活動予定	40
イベントセミナー情報	42
技術情報シート	
省エネ法特定機器の施行と高効率変圧器の動向	43
締め切り迫る会員増強キャンペーンにご協力を	阿部 一尋 47
編集後記	47



社団法人日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294



特集：JIAの周縁

JIAは危機的状況

JIAではこれまで建築家の職能確立とそのため制度づくりを目的の一つに掲げてまいりました。2002年にはCPDが施行され、あらたな段階に入ったと言えるでしょう。しかし、JIA自身はほんとうに大丈夫でしょうか。会員の減少が続いている中、会員増強のキャンペーンをしているものの、問題の本質はなかなか見えにくいような気がします。

今月号と次号では、JIAを取り巻く市民社会との接点に光を当て「JIAの周縁」と銘打って特集記事を掲載す

ることに致しました。JIAや建築家について、若手の建築家たちはどう思っているのか、さらに市民はどう思っているのか。ここであらためてJIAや建築家を足元から見てみようという企画です。今月は、「JIAの会員構成の変化」についてのレポート、非会員も含めた「若手建築家4人の座談会」、若手建築家140人へのアンケートから「若手建築家からみるJIA」、市民100人へのアンケートから「市民からみる建築家とJIA」についてお伝えします。

JIAの会員構成の変化

会員数は8年前の7割

JIAが設立されて今年で15年になります。バブル崩壊後の長引く不況の中、現在会員の減少が大きな問題になっています。[図1]は、1990年から2001年までの10年間の会員数の変化です。1993年までほぼ横ばい

年度	JIA会員数	支部会員数
1990年	6969	3636
1991年	6925	3621
1992年	6951	3619
1993年	6865	3576
1994年	6593	3434
1995年	6218	3203
1996年	6219	3152
1997年	6113	3068
1998年	5553	2717
1999年	5418	2679
2000年	5134	2537
2001年	4928	2459

表1 年度別会員数

だったのが、1994年、1995年と減少し、1996年と1997年は持ち直すものの1998年から毎年減少の一途をたどっています。1993年には6865名だったものが2001年には4928名となり、8年間に71.8%まで減少したことになります。

総数では分からない正確な状況把握

こうした状況を正しく把握するにはたんに会員総数の変化では捉えられません。[図2]は、1994年時と2002年現在の関東甲信越支部会員の年代構成の推移です。1994年には40代会員がもっとも多く39.1%を占め、次いで50代が34.1%。40代と50代とで全体の73.2%を占めていました。2002年では40代会員の割合は17.3%と激減しており、50代が45.6%と全体の半数近くを占め、1994年には2.3%だった70代会員が8.9%と4倍近くになっています。30代会員は2002年現在でわずか1.2%しかいません。

38歳以上の年齢層が減少

JIAの名簿は上書き保存されているため過去の年齢構成を調べるのは困難ですが、1994年時の支部会員の年代別会員数の記録があります [表2]。この数値から

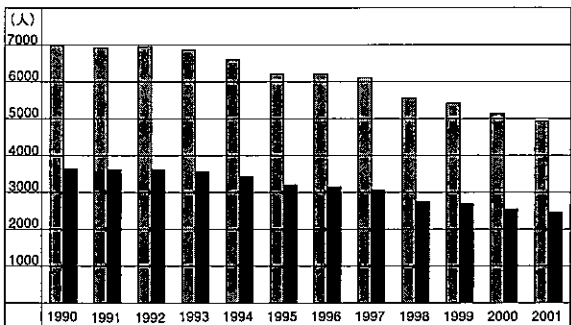


図1 年度別会員数

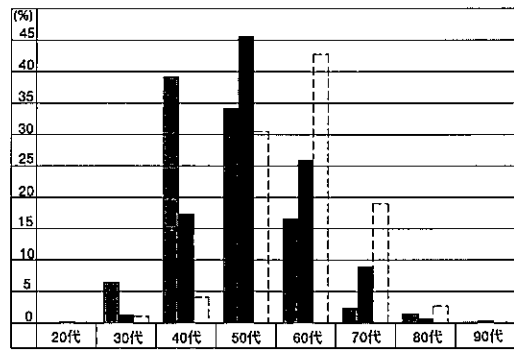


図2 支部会員の年代構成

図1 年度別会員数

図2 支部会員の年代構成

統計学的に年齢別会員数を推定すると [図3] のようになります (各年齢の人数を年代ごとに積分した値が [表2] の数値となる曲線)。また同様に2002年の支部会員の年齢別会員数も図のよう

年代	1994年	2002年
20代	1	2
30代	226	28
40代	1369	399
50代	1193	1051
60代	577	596
70代	80	206
80代	51	16
90代	3	9
合計	3500	2307

表2 年代別支部会員数

に求められます。[図4] は、1994年の年齢別会員数をそのまま8年移動させた曲線 (すなわち1994年から8年間入会退会者ともにゼロと仮定した値) と、2002年の年齢別会員数の曲線を重ねたものです。この図から現在46歳 (8年前の時点で38歳) の会員を境にして上の年齢層は8年間に入会より退会が上回り、46歳以下は入会が上回っていることが分かります。46歳以下の増加が僅かなのに較べ50代と60代では大幅に (3割から5割) 減少しています。

8年後の支部会員数は1306人

1994年と2002年の年齢別会員数から各年齢ごとの8年間の増減率を求め、それぞれを2002年の各年齢の会員数に乗じることで、統計学的に8年後の年齢別会員数を推定することができます。例えば1994年時

に35歳だった年齢層は8年間の増減率が1.65、45歳では0.79、55歳は0.56であり、2002年時の35歳、45歳、55歳の年齢層も同じ増減率で推移すると仮定し8年後の推定値を求めます。[図3] に計算から求めた推定値を示しました。1994年に46歳2002年に54歳でピークを持っている曲線が、2010年では62歳でピークを持つ曲線になり、支部会員数は現在より43.4% 減少し1306人。1994年時の37%になります。

8年後の40代会員はわずか4.1%

1994年と2002年の支部会員年代別会員数による統計学的推定値から、2010年の年代構成予測を [図2] に示します。1994年に39.1%、2002年に17.3%を占めていた40代会員は、2010年ではなんと4.1%となります。50代会員も30.5%に減少し、60代会員が42.7%を占めます。また70代会員は19.0%となり、60歳以上の会員が全体の64.4%を占めるようになります。1994年から2002年の8年間の年代構成の変化から推定する限り、現在のJIAは危機的な状況に向かっており、これを回避するためには、関東甲信越支部として年間それぞれ100人規模の30代および40代建築家の入会者が必要であることが分かります。

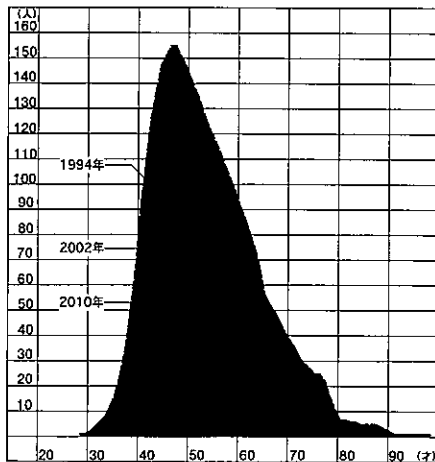


図3 支部会員の年齢別会員数

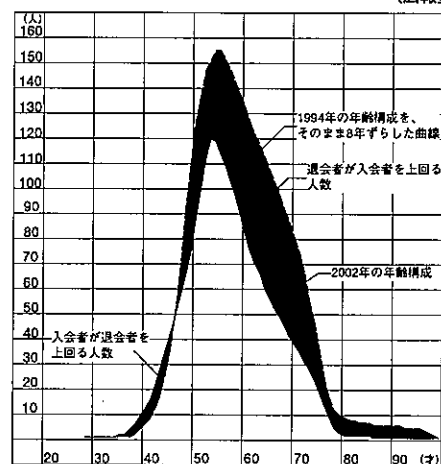


図4 年齢別会員数の増減

〈広報委員会：高木恒英〉

特集：JIAの周縁

座談会

若手建築家とJIA

出席者：荒木 毅，亀井 正浩，宮 晶子，吉川 博行

司会：森岡 茂夫（広報委員会副委員長・Bulletin編集長）

メディアではゲンチク方が花盛りです。テレビには連日のようにデザイナーが登場します。若者向け雑誌ではすでにファッションになっており、Web上には建築家とクライアント予備軍のお見合いコーナーまであります。そこにはたくさんの若手建築家が登場しますが、彼らの多くは残念ながらJIAの会員ではないようです。

そのことは前のページ「JIAの会員構成」からも分かります。

そこで4人の若手建築家に話し合ってもらいました。JIA会員が亀井氏と吉川氏、非会員が荒木氏と宮氏です。テーマは「若手建築家とJIA」。座談会は2時間にもおよび掲載されているのはその一部です。

所属団体

司会 今日4人の皆さんに「若手建築家とJIA」というテーマで話し合ってください。実は、JIAには若手会員が非常に少ないんですね。関東甲信越支部に2300人の会員がいますが、その中で30代以下の会員はわずか30人、1.3%しかいません。なぜ若手建築家がJIAに入らないのか、それが今日のテーマです。まず始めに、建築関係の団体に入っているかどうか、お聞きします。JIAのお二人はJIA以外に会員になっていますか。

吉川 私は建築士会に所属しています。

亀井 私は日本建築学会です。

司会 JIA会員ではない宮さんと荒木さんにもお聞きします。

宮 やはり学会と東京建築士会です。

荒木 東京建築士会に去年入りました。コンペのために。

司会 そういう方は結構多いみたいですね。吉川さんと亀井さんは、建築士会と学会でどのような活動をしていますか。

吉川 私は全くと言っていいほど活動していません。

亀井 学会の方はありません。学部の際に準会員になって、それからずっとそのまま入会したままです。

会員になったきっかけ

司会 亀井さんと吉川さんは、JIAでどのような活動をしていますか。

亀井 私は建築セミナー実行委員会と教育委員会です。

吉川 建築セミナーの実行委員を来年から、ということになっています。

司会 宮さんは建築士会、学会での活動は。

宮 特別そういうことはないです。

司会 かかわりとしては、士会では、例えばコンペだとか何か。

宮 そうですね。コンペですね。コンペに参加したかったということ、建築家の賠償責任保険のことがあります。建築士会とJIAの方と考えたんですが、会費がちょっと高いので、コストだけを比べて建築士会のほうにしました。学会のほうは、作品撰集に出したいというのがあってそれで入った、という動機です。

司会 荒木さんは、士会での活動は。

荒木 いえ、何も。コンペに出すために入ったんですが、もうやめようかと思っているんです。

司会 亀井さんがJIAに入ったきっかけは何ですか。

亀井 今、所属してます建築セミナーがきっかけです。山下設計をやめて、少し時間ができたのと、小さい事務所になりましたので自分から外との接触を探さなきゃいけないということで、建築セミナーに1年間、受講生として参加しました。その後現委員の方から声をかけられ、セミナーの何かお手伝いをしようということで、そのためにはJIAに入会しなさいということで、それで入会したというのがきっかけです。

司会 じゃ、まず受講生として参加して、そこからJIAに入会したんですね。

亀井 はい。ですから、あまり外からJIAを見ることがないままに入会してしまったというのが、本当のところですよ。

司会 吉川さんはJIAに入ったきっかけは。

吉川 私も同じなんですよ。亀井さんの、実は前の年の建築セミナーを受講してまして、それでJIAに入会し



亀井正浩氏 吉川博行氏 司会：森岡茂夫 荒木毅氏 宮晶子氏

ました。

司会 荒木さんは建築士会に入会したのは、やはりコンペが一番大きな理由ですか。

荒木 そうですね。毎回コンペに出そうと思ったときに、士会以外の方は1万円とか5000円とか払ってコンペに出さなくては行けなかったんで、それだったら年会費払ってもいいかなと思いました。それから僕もJIA建築セミナーに、多分1984年から85年ぐらいに1年間通いました。レーモンド時代に行かされたんです。半額出すから、半額お前が出させて。

司会 そうですか。

荒木 違ったかな。全額出してくれたのかな。そのときはほんとに、いまだに思い出に残る印象深いセミナーだったですよ。そのときに講師で来られる先生方が僕にとって雲の上の人のような印象がありまして、そういう先生方ばかりが入るのが建築家協会っていう存在で、僕には全然関係ない世界っていう印象は、そのときに受けました。それ以来ちょっと近寄りたいたい場所でもあるんです。

司会 JIAセミナーを受講した方が3人もいるのは大変うれしいですね。吉川さん、JIAに入って、活動をしてよかったなと思ったことはありますか。

吉川 特に建築セミナーの活動ぐらいしか、私はなかなか活動らしい活動というのはしてないんですが、やはり荒木さんが言ったように、それまでは雲の上の人という存在だった人たちと直接お話ができるというのは、恐らくJIAのこういう活動をしてなければ、なかなか普段はできないだろうなという。そういうところでは非常に、やっていたおかげでということはあると思います。

司会 亀井さんはいかがですか。

亀井 私も、そこが委員側に立ったときのうまみというか、面白味だと思うんですね。企画側に立った方が面白くことがたくさんあって、有名な先生方と直接お話できたりとか、セミナーに参加する側の受講生たちが何を考えているのかというのがわかるとか、そういうことが

すごく企画側に立つメリットだと思うんですね。それともう一つは、事務所を自分で開いているというのもあるんでしょけれども、内にもってしまおうようなベクトルの方向があって、そうじゃなくて、もっと外に向けることで吸収できるようなことはいっぱいあるんだというのが、JIAに入ったことでより明確になったというか、そういう部分に気づかされたというのは、JIAに入っているいろいろな活動していく中で、いろいろな方々とお会いする中で、得られたことだと思いますね。

団体に入るメリット

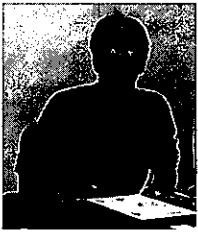
司会 お聞きした限りでは、まずこういう団体に入るメリットの一つに、ほかの建築家と情報交換できるっていうのがあると思います。

荒木 僕の場合は住宅の仕事が99%なんです。確かに一人で閉じこもりそうになった時期があったのですが、閉じこもっちゃいけないと思い、若い人からも刺激を受けたいと思って、自分の事務所で勉強会っていうのを3年ぐらい前から始めました。インターネットで呼びかけて、その都度参加したいという人が集まって何となく話し合うだけなんですけれども。今来ているのは自分で事務所を開いている人とか、あるいは学生とか、学生でも違う学部の方とか。そういった方と、月に一度ぐらい集まって少し満たされた部分があります。それとも一つ、最近、住宅のプロデュース会社というのが幾つかあります。そういったところで、例えばコンペ形式でやる場合とか、あるいは紹介の場合でもプロデュース会社で何か集まりがあったときに、住宅で活躍している割と同年代から若手、あるいは年上の魅力的な建築家の方と知り合う機会ができます。そのときお話をして、友達になっちゃったりなんかして。それで酒を飲みに行ったりとか、お話ししたりとかっていうのをこの1~2年始めたら、割と友達がふえてきまして、そういったところでも少し満たされている部分もあります。

JIAの対外活動

司会 核心に入っていきたいんですけどね。外への働き

特集：JIAの周縁



荒木 毅 氏
1957年北海道生まれ
荒木毅建築事務所主宰
東京建築士会会員

かけてというのがJIAに欠けていた部分があると思うんですね。諸先輩に、建築家協会に入ることがステータスだった時代があるんですかって聞くと、いや、そうじゃないと、きっぱり言います。昔からきちっと問題意識を持って入っていたんだと先輩方は言います。そこで30代でJIAに入ったおふたりが、今JIAに感じていることを聞かせてください。

吉川 もっと外に発信をしていく。やっぱりJIAという存在自体が、多分、一般の方はよくわからないと思います。例えば建築士会や建築士連合会という団体は、結構知ってる方はたくさんいるんじゃないかと思うんですね。その違いが何かというのは、会員数の多さというのはもちろんそうなんですが、外への働きかけというのは、多分、非常に強力なんじゃないかという気がします。そういう意味で、JIAっていうのは割とその辺が、まだこれからという感じがするんですが。最近「JIAニュース」がリニューアルされて、ゆくゆくは一般書店で販売をしていきたいそうですが、今すぐにでもするべきじゃないかなと僕は思います。今ちまたでは、建築家というものがブームになってるぞというの、ありますよね。そういうところで、逆にJIAがそれを利用しない手はないんじゃないかというふうには思ってます。その辺をもっと利用すべきだということと、あとは、このブームの繰り返してというのは必ず来ると思うんですが、そのときにJIAが何をすべきかっていうのは、ちゃんと考えておかないと。恐らくこのブームが終わった後で、建築家っていうものに対する世間の見方というの、一般的な評価というのが、かなり下がってくることもあるだろうというふうに僕は考えているんですが。そのときJIAが何をすべきかっていうのは、やっぱり考えなきゃいけないと思います。そのために今から、もっとJIAが外へ働きかけて、例えばCPDの話なんか多分つながってくるんだと思うんですけども、建築家というのはこういうことをして、こういう人なんだと。こういうものを目指しているとか、そんなようなものをちゃんと発信し



亀井 正浩 氏
1963年東京生まれ
亀井建築設計事務所主宰
JIA会員/日本建築学会会員

ていく必要があると思います。

司会 何か、その発信の方法で、具体的なアイデアはないですか。

吉川 まず、取っかかりは、例えば「建築家architects」を一般書店での販売っていうのは、僕は非常にうまい。タイミングさえ合えば、それがキーになるんじゃないかという気はするんですが。

建築セミナー

司会 JIAの対外活動の中で一番成功している事例の一つが、建築セミナーだと思うんですね。亀井さんは、今、副委員長ですね。どうですか。JIAに対する提案は。

亀井 セミナーはJIAを知ってもらいたい機会だと思っているんですね。もちろん、会員の方がたまに受講生になることはありますけど、ほぼ会員外の方が、まず取っかかりとして入ってこられます。その中には学生ももちろんいますので、そういう意味ではJIAを知っていただくいい機会になっていると思います。今の建築セミナー実行委員会をよく話しているのですが、JIA会員外の方がセミナーを受けた場合、JIA会員になるときに何らかの特典にするのも一つの手なんじゃないかということがあって。つまり予備軍がいっぱいいるのに、どうしてJIAの会員になってもらえないのかということになるだろうと思うんですけども。そういう意味では、少し何か工夫をすれば、数は少ないでしょうけども、毎年毎年、もう20何年つながってますので、そこからJIAの魅力をわかっていただけるような門戸の開き方っていうのは、僕はあると思いますね。

司会 対外的な働きかけとして、一般市民に対する働きかけ、それから建築を目指す学生への働きかけ。もっと、その以前の小中学生のところのレベルまで働きかけなきゃいけないっていうのもあります。それから、建築大学を出て実務についている若手建築家への働きかけ、たくさんあります。もっと具体的に我々が提案して、新たな方向を見つけなきゃいけないと思います。



宮 晶子 氏
1963年兵庫県生まれ
スタジオ2A主宰
東京建築士会会員／日本建築学会会員



吉川 博行 氏
1964年埼玉県生まれ
CDI青山スタジオ共同主宰
JIA会員／埼玉建築士会会員

JIAと若手建築家

司会 JIAの会費について聞きます。会費は高い？（笑）
吉川 会費が高いというのは、もちろんそうなんです。会費を払って会員であるということに対して、確かに実利的なメリットとしては、あまりないですね。いろんな活動をする中でネットワークとかは広がっていくと思うんですけども。例えば、JIAの会員になりませんかと勧めるときに、アピールポイントが少ないというのは非常に感じる場所ですね。例えば友人に、JIAの会員にならないかと言ったときに、じゃ、メリットは何があるの、と必ず聞かれるんですが、非常に説明しにくいというのはありますね。それもあって近い世代の会員が少ないのかなとは思いますが。お目にかかるのも、皆さん先輩の方がほとんどで、世代的に大分離れてしまっている部分ということもあって。私と亀井さんは同い年なんですけど、この年代が本当に周りでないという。

亀井 さっき1.3%、30人と聞いて、私の周りで30代の方が30人もいるかなと思って。逆に10人もいないと。

私は商工会議所にも所属しています。商工会議所には青年会議所っていう、商工会議所の前段階があります。若手でばりばりやっている、頭に立ってやっている、いわゆる予備軍っていう人たちがその中で活動してきて、それを引っ張って上の組織へ行くっていうのは、組織としてはうまいやり方だと思うんですね。JIAという一つの組織の中で、若手が引っ張っていくシステムは、うまくいけば活性化にはつながるのかなというふうに、外から見ると気がつかされる部分が非常にあるんですね。

司会 一つのアイデアなんですけどね、建築を目指す学生だとか、既に事務所に勤めている若手の建築家が自由にここに入出入りできるようにしたら、どうですかね。何か具体的なお手伝いもやってもらう。例えば、イベント、模型展をやるときには、その人たちにアクティブに動いてもらう。敷居の高さを取り除いて、若い人たちに自由に参加してもらう。そういうことをどんどんやっていく

のも、JIAが認知される、身近に感じてもらう一つの手なかも知れないですね。そのために、やっぱり皆さんのような若い知恵が必要なんだろうと思うんですよ。そういう提案を、ぜひ、していただきたい。

亀井 男の子の将来なりたい職業の中に、二番か三番に大工さんが入ってたんですね。彼らなりに、ある程度魅力を感じて大工さんになりたいというふうに思っています。そこに建築家が入るようになれば、いわゆる小さい頃からの語りかけがあれば、もうちょっと違う方向になるという気がします。

医者と患者、二つの顔

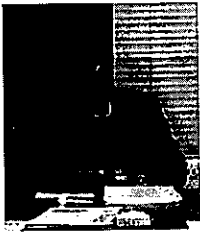
司会 そうですね。渡辺誠さんが最近書いた本の中で「アーティストは、社会の医者ではない。むしろ患者に近い。だれよりも早く罹患して、未知の病原体の流行に警鐘を発する患者」だ、と書いています。我々、ものづくりをしようとする者は、医者と患者という両方の顔があって、日常業務の中では、きっと患者に近いんだと思います。我々建築家っていうのは、黙っていれば、誰にもかわらずにものづくりに専念したい。それが一番楽しい。金をもらえるからやっているかっていうと、金をもらえなくてもやっちゃう部分というのは、荒木さんないですか。

荒木 それは、面白い仕事であれば、設計料とかあんまり気にしないでやっちゃうってのが、ありますよね。

司会 で、渡辺さんが何を言いたかったっていうと、我々には二つの顔があるんだと。日常の業務は恐らく患者に近い。わけのわからない、この辺にある小さな紙切れにも何かを書き始めるような、変な人ですよ。ところが、一般の市民からは医者としての役目も期待されているんだと思うんですね。それで、若手建築家がなぜJIAに入らないかという理由の大きな一つに、やはり今一番とにかくチャンスさえあれば設計をしたい、ものづくりをしたいって意欲に燃えているんじゃないかと思うんですよ。宮さん、どうでしょうか。

宮 そうですね。その比較がちょっとよくわからない

特集：JIAの周縁



森岡茂夫
広報委員会副委員長
Bulletin編集長

んですけれども、何しろ日常の業務というか、設計したりですとかいうことで、日々楽しくやっているという感じですよ。

司会 ね。経済行為だっというふうにとらえれば、きっと、もっと早く見切りをつけるはずなんですよね。

宮 そうです。それこそ話に出ました設計料のことですが、積み上げ方式でやると、とんでもないお金になってしまうと、とてもじゃないけどパーセンテージで算出しないと、積み上げたら、家と同じぐらいの額になってしまう。住宅の場合、特にそうだと思うんです。膨大なエネルギーがかかって、本当に時給にしたら雇っているバイトの人よりは低いんじゃないかっていうような活動です。でも楽しい。

司会 純粋に経済活動として考えたら、恐らく日本のあらゆる職業の中で最も経済効率が悪い部類に入る。

宮 そうだと思います。

司会 今の若い方は建築学科を出て、銀行だとか勤めたりする人もいるそうですね。

吉川 私のころはちらほらといましたね。

司会 恐らく、今、その人たちと連絡をとってみてください、同じ年度に同じ学科を出たのに、もう、自分よりもはるかに高い給料を取るといふ。

宮 それはもう、一般的にそうです。

司会 そういう、延々長い時間、我々は低い給料にずっと我慢してきたんですが、このままの状態が続けば、決断していいことじゃないですよ。今、申し上げたとおり、建築家っていうのは給料がなくても、また夜中まで徹夜させられても、やっちゃんような人種が集まっているわけで、それは創作活動の中では自分の充足感があっていいのかもしれないんですが、渡辺さんが言っているように、それは患者としての建築家であって、一般市民からは医者としての役目も期待されているんだと思うんです。二つある顔のうち、医者として求められている顔で活動する場が、私にとってはJIAだと思っているんです。

吉川 そうですね。基本的には、患者と医者という二

面というところまで極端かどうかわからないんですけども、患者のままでいてはというか、とにかくお金がなくてもいいから設計がやりたいという意欲だけでは続かない部分で、どうしても出てきてしまうと思いますし、やっぱり仕事をするからには、その仕事に見合っただけの報酬はもらわなきゃいけないという、その部分が、多分、建築家とアーティストの違いだと思うんですね。あともう一つ、圧倒的に僕は違うと思うのは、建築家は人のお金を使って仕事をしますが、アーティストは別に自分で持ち出してもいいわけですね。その意味で、社会に対してというか、自分以外の人に対しての、持つ責任というのとは全く違うというふうに思ってるんですけども。その辺の、いわゆる負わなければいけない責任というところを、その部分の一つとしてのJIAという組織があるべきだというふうには、やはり思います。ですから、医者としての顔での活動がJIAというところは、全く私も同感だと思うんですが、いわゆるアーティストとして活動をしたいと思っている人がいるかどうかは、ちょっとわからないんですけども、その辺を結構、外の人は同じように見ている人が大多数だなど。要するに建築家と言われている人は、みんな芸術家で、とにかく好きなものをつくってしまうというふうに見ている人が、非常に多いんじゃないかというふうには僕は思ってるんですが。それは、やっぱり違うんだよということを、ちゃんと発信しなきゃいけないんじゃないかという気はします。

JIAに望むこと

司会 じゃ、最後に宮さんと荒木さんに。どうでしょう、JIAがこうだったら私たちは入りますっていう、何か一つでも提案があればお聞かせください。会費がゼロなら、それでも結構ですよ。

荒木 入るか入らないかは、わからないんですけども。CPDの中で、建築家としてのベーシックな知識や技術をセミナーでやっているなら、そういうのは受講してみたいという気持ちはあります。日々の活動の中で、つい

うっかり抜けていくこととか、新しく出てきたことの知識が足りなかったりってことが……。それを補強、補充していきたいという気持ちはありますけれども、ただ年会費7万2000円と言われるとつらいかな、そのセミナーだけ会費を払って受けるのなら、ま、受けてもいいかな。

司会 でも、事務所協会がやっている大臣指定の講習会なんかでも1万とか2万、取りますからね。

荒木 ああ、そうか。

司会 宮さん、何かありますか。

宮 今、おっしゃっていたことだと思うんですけども、建築家に頼むと作品をつくられるのではないかっていうような、すごく懐疑心というか、頼みたいけれども、一方ですごく不安を抱えていらっしゃる方がいる。建築家っていうのは、何も自分の作品をつくらうと思ってやっているわけではなくて、今の社会を見て、だけど今までにない新しい、人の生活にとっていいことであったり、今の技術の中でいいことであったり、ちょっと未来を見ていることであったり、あるいは失われた過去を見ていることであったり、いろいろそういう、人のために何か提案をしている人たちだと思うんですね。それこそ、お金のためだけではなくて。やっぱり理想を求めている人たちであると思うんですね。作品のために自分の家をやられるのではないかっていうような、今まではそういうケースもあったのかもしれないんですけども、そうではないことのほうが多分、多くの建築家の共通していることだと思うんですね。社会のためだったり、人のためだったり。それはあるいは既存概念を崩すものだったりするので、一般の方からは抵抗感があったりとか、あるいは作品だと思われたりとかすると思うんですけども、現実、今、世の中にあふれているものというので満足できてる状態ではないと思うんですね。それを何とか、経済行為には変えられない莫大な作業量の中で、いい生活をつくらうということを考えているのがいい建築家と言える人たちだと私は思うんです。ですから、そういう

ことをしている人たちなんだっていうことを、もっとわかってもらいたい。アートとか作品とか、そういう言葉で片づけられることではないと思うんです。だから、そういう活動をやっている集団であることとか、それはどういうふうに社会にフィードバックされることであるかとか、それはどうやって人の生活を豊かにしていくことであるのかということが、もっと伝わってほしいですね。例えば建築学会賞ですとか、JIA新人賞ですとか、そういう賞のことが一般の新聞に載るといことはあまりないと思うんですね。それから新しい美術館ができたとしても、設計者のことを書いてある記事っていうのはすごく少ないと思うんです。建築界では話題になっている新しい試みや提案があるにもかかわらず、これぐらい大きな席数の劇場ができました、美術館ができましたってことしか新聞には発表されてないことが多いですよ。空間というのは、本来すごく人の生活のベーシックなことに影響していると思うんです。子供たちの精神面だったりとか、思い出だったりとか、記憶だったりとか、ものすごくいろんなことに関係している大切なことだと思うんです。そういうふうなことを一個人ではなかなか発信できない部分もあるので、社会に対して建築や建築家のそういう存在や活動を紹介して下さって、そのような建築家としての活動をしている人を、例えば認めていくとか。CPDのことはよくわかりませんが、単に点数をつけていくような、そういうところが建築家協会ってことは、あまり……。一般の方から見ても、相変わらずわかんないことだと思うんですね。CPDで何を受講しているからって一般の人が見ても、それこそわかんないですよ。そういうのではなく、建築家の必要性をより多くの方に感じてもらえることに対する活動とサポートが機能するということであれば、参加をするモチベーションというのも上がってくるかなというふうに思います。

司会 大変うれいんですね。何か接点が見出せたような気がします。今日は本当にありがとうございました。

(2002年12月10日火曜日JIA館にて)

特集：JIAの周縁

若手建築家は JIAに何を求めているか

若手建築家140人へのアンケートからみる「JIA」

30歳代から40歳代の方々を中心に建築家140名へアンケートを実施いたしました。110名は無作為に、残り30名は当会の名簿から抽出いたしました。35名の方から回答をいただきました。回答者の内訳は30歳代16名、40歳代19名です。

質問項目

- Q1**：建築に関わる団体に所属していच्छいますか。(複数回答可)
- Q2**：上記設問で日本建築家協会に所属していない方にお伺いいたします。
1. 日本建築家協会に関心はありますか。
 2. 日本建築家協会に所属されないのは何故ですか。(複数回答可)
 3. 日本建築家協会に所属されていれば、協会に何を求めですか。(複数回答可)
- Q3**：日本建築家協会に所属されている会員の方にお伺い致します。当会に何を求めですか。(複数回答可)
- Q4**：皆様にお伺いいたします。日本の建築家の未来は明るいと思えますか。

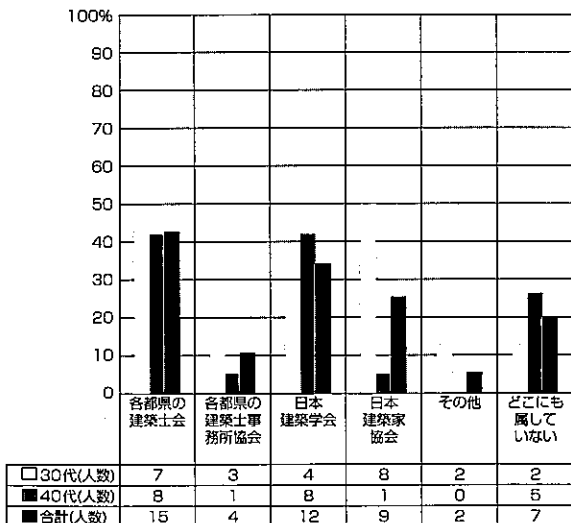
所属団体について

JIAの会員は35名中9名。その内JIAのみに所属している方は4名(いずれも30歳代)。前述のようにJIAの会員名簿から30名を抽出している関係でJIA会員の比率が高くなっていると思われます。

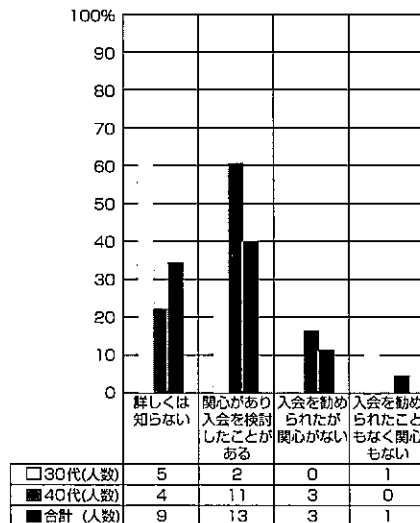
残り5名の方は他の団体にも属されている。建築士会に属されている方は14名(内8名は建築士会のみ)に所属)。10名の方は建築学会に所属(内5名は建築学会のみに所属)。また7名の方はいずれの団体にも属されていません。

なぜJIAの会員にならないか

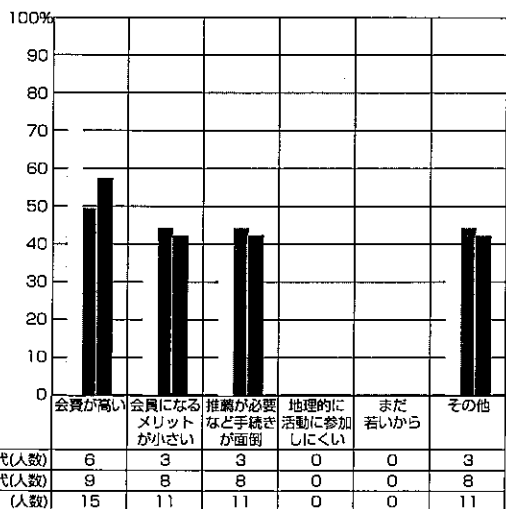
非会員26名中13名の方は「入会を検討したことがある」と回答。15名の方が会費が高いことを入会しない理由の一つとしてあげています。当会のメリットが感じられない、と手続きが煩雑という理由がそれぞれ11名ずつとなっています。その他の理由でも当会の性格や目指すところが分かりに難いなどの回答があり、それらを加味すると会費が高いことだけが妨げになっているのではなく、会の存在意義がよく分からないことも大きな妨げになっているようです。



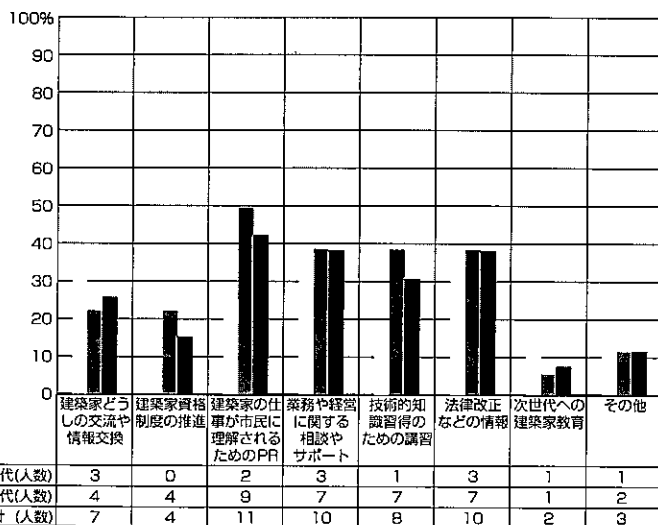
Q1：建築に関わる団体に所属していच्छいますか。(複数回答可)



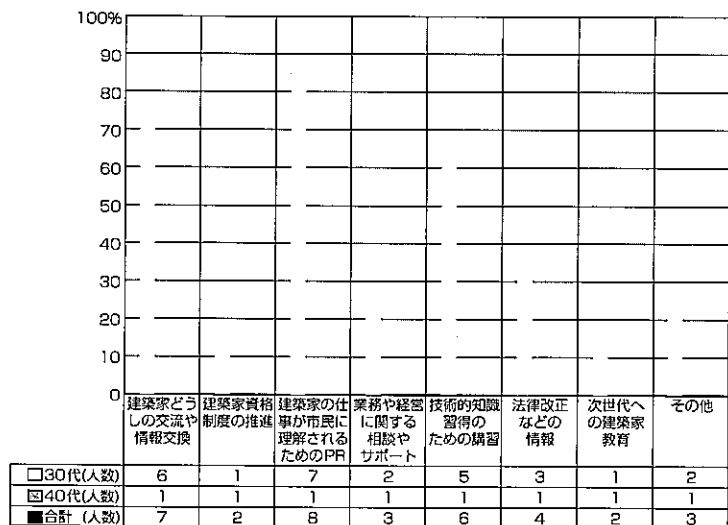
Q2-1：〈非会員の方へ〉日本建築家協会に関心はありますか。



Q2-2：〈非会員の方へ〉日本建築家協会に所属されないのは何故ですか。(複数回答可)



Q2-3：〈非会員の方へ〉日本建築家協会に所属できれば、協会に何を求めますか。(複数回答可)



Q3：〈会員の方へ〉当会に何を求めますか。(複数回答可)

JIAに求めること

回答をみるとJIAの会員・非会員ともに求めることにほとんど違いはなく、建築家の仕事が市民に理解されるためのPRが望まれており、建築家どうしの交流や意見交換と技術や知識の習得（法改正などの情報を含め）がほぼ同数で続いています。

30代の非会員A氏

■2、3回入会を検討しましたが、若い建築家にとっては会費と手続きは面倒です。それに見合うメリットがあればすぐにでも入会したい。

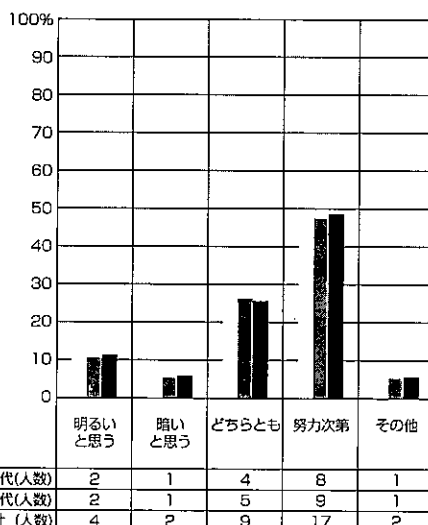
30代の会員B氏

■CPD制度について：実施段階になったが、責任や義務面がかりが表面化しており、明確なメリット（裁量や権限など）が分らない。公的な資格として強みがあると良い。業界全体として、その仕組や展望、方向性ができるようにすることを希望する。

求めるものが得られない

会費の問題や入会方法の簡素化が求められていることは確かだが、若手建築家が求めていることにJIAが応えられていないことが最大の入会のさまたげになっているようです。

〈広報委員会：郡山毅〉



Q4：日本の建築家の未来は明るいと思いますか。

特集：JIAの周縁

市民は建築家に何を求めているか

市民100人へのアンケートからみる「建築家」

市民を対象にアンケートを実施しました。サンプリングの方法はWEBアンケートを利用し、サンプル総数100人、20代から60代まで世代ごとに男女各10人ずつです。設問は下記の通りです。建築家の仕事はオフィスビル、商業ビル、集合住宅や公共建築などもあり、本来なら企業役員へのアンケートなども必要ですが、今回は一般市民の誰もが答えられる身近な建築として住宅に限定しました。

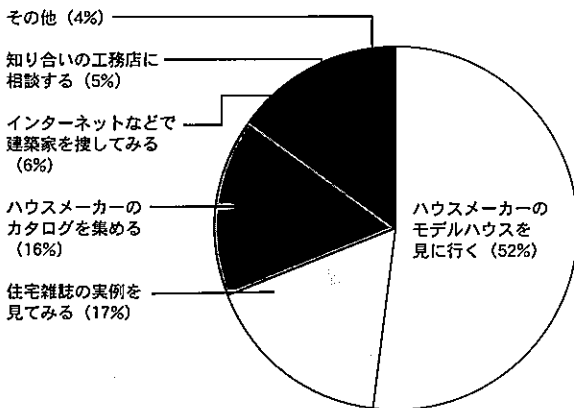
質問事項

- Q1：もし、あなたが家を建てようと思ったとき、最初に何から始めますか。
- Q2：もし、あなたが家を建てるなら、建築家に依頼したいと思いますか。
- Q3：「依頼したい」または「依頼するかどうか検討したい」とお答えになった理由は何ですか。
- Q4：「依頼するかどうか検討したい」または「依頼しないと思う」とお答えになった理由は何ですか。
- Q5：「日本建築家協会」をご存じですか。

(回答者：100名、選択肢から選択)

まず、モデルハウスを見に行く

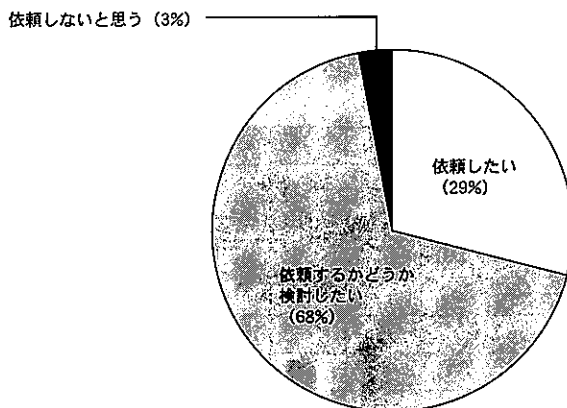
家を建てようと思ったとき、最初にモデルハウスを見に行くと52%の人が答えています。ハウスメーカーのカタログを集めると答えた人も含めると、じつに7割近くの人が、まずハウスメーカーにアクセスすることが分かります。住宅雑誌の実例を見てみると答えた人は17%。インターネットなどで建築家を捜すと答えた人はわずか6%しかいません。



Q1：もし、あなたが家を建てようと思ったとき、最初に何から始めますか。

建築家への依頼を考えている人は、なんと97%

家を建てるなら建築家に依頼したいと思いますかという設問に対して、29%の人が依頼したいと答えています。依頼を検討したいと答えた人も含めるとなんと97%にのぼり、依頼しないと思うと答えた人はわずかに3%です。特に男性では44%が依頼したいと答えています。



Q2：もし、あなたが家を建てるなら、建築家に依頼したいと思いますか。

	10	20	30	40	50	60	70	80	90(%)
デザインの良い家にしたいため	10	15	20	25	30	35	40	45	44
自分に合った希望通りの家にしたいため	10	15	20	25	30	35	40	45	44
使いやすい機能的な家にしたいため	10	15	20	25	30	35	40	45	44
設計と工事も分けて建築家監理をしてもらったほうが安心なので	10	15	20	25	30	35	40	45	44
建築家に頼んだほうがアフタケアが安心なので	10	15	20	25	30	35	40	45	44
その他	10	15	20	25	30	35	40	45	44

Q3：「依頼したい」または「依頼するかどうか検討したい」とお答えになった理由は何ですか。(回答者：97名、選択肢から複数選択)

建築家に求めるのは、

見た目よりも自分に合った使いやすい家

依頼したいまたは依頼を検討したいと答えた人の83.5%が自分に合った希望通りの家になりたいと考え、73.2%の人が使いやすく機能的な家になりたいと考えています。意外にもデザインの良い家になりたいのでと答えた人は28.9%に留まりました。私たち建築家が問題にする設計監理と工事の分離については、20代から40代の女性にはほとんど理解されていないようです。

躊躇するのは建築家を探すのが難しく

設計料が高そうだから

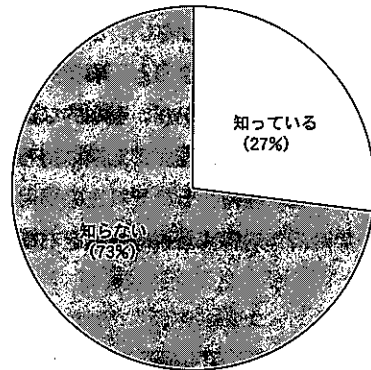
依頼を検討したい、または依頼しないと思うと答えた人の74.6%が設計料がたくさん掛かりそうだからと答えています。また66.1%の人が自分に合った建築家を見つけるのが難しそうだからと答えています。希望通りにならない気がする、見た目は良いが使いにくくなりそうというのは、ともに15%ほどに留まり、奇抜なデザインを心配する人はわずかに7%です。

	10	20	30	40	50	60	70	80	90(%)
奇抜で変なデザインの家になってしまいそうだから	■								
言いたいことが言えず希望通りにならない気がするから	■	■							
見た目を優先して使いにくい家になってしまいそうだから	■	■							
自分に合った建築家を見つけるのが難しそうだから	■	■	■	■	■	■	■	■	■
設計料がたくさん掛かりそうだから	■	■	■	■	■	■	■	■	■
なんとなく近づきたいので	■	■							
その他	■								

Q4：「依頼するかどうかが検討したい」または「依頼しないと思う」とお答えになった理由は何ですか。(回答者：71名、選択肢から複数選択)

JIAを知っている人は27%

日本建築家協会をご存じですかという設問には27%が知っていると答えています。しかし、この中には他団体と混同して答えている人もかなりの割合で含まれている可能性がありますので、正確でないかもしれません。



Q5：「日本建築家協会」をご存じですか。

市民の期待と建築家の意識にギャップはないか

97%もの市民が建築家への依頼を考えていながら、じっさいに建てられる住宅のうち建築家が手掛ける住宅がごく一部になる要因はどこにあるのでしょうか。住宅の仕事がけっして「儲かる仕事」でないことは会員の多くが認めるところですが、建築家に頼むとお金がたくさん掛かるのでは？ という思いはなぜ生じるのか。この97%もの建築家への期待はいったいどこにあるのか、私たち建築家は考えてみる必要がありそうです。

JIAは市民のニーズに答えているか

建築家への依頼を考えている人たちの3分の2が、自分に合った建築家を探すのが難しいと答えています。JIAには5000人ももの建築家がいるものの、市民たちは建築家との出会いに対し悲観的であり、当の建築家たちは仕事が無いと青息吐息の状態です。この状況に対してJIAは果たして何ができるのでしょうか。

〈広報委員会：高木恒英〉

誌上セミナー

ファイナンシャルビジネスのすすめ

〈お金のことをもっと知ろう〉その4 (最終回)

「ファイナンシャルビジネスのすすめ」は、9月号、10月号、12月号、2月号の計4回連載いたしました。広報委員会では、この連載を誌上セミナーとしてCPDプログラムの認定を受けています。申請用紙はp.16に掲載しています。



田中 修一

■事業に関する税務の知識

土地・建物の税金には、取得・保有・運用・譲渡・相続・贈与がある。基本的な内容は理解しておこう。

税額の計算などは出来るはずがない、この分野は税理士の仕事だと頭から除外してしまうと、事業計画の結論が出ない。詳細に知る必要はないが、基本的なことは私がいれば用が足りる、といった程度の知識は持ち合わせていたい。表1は土地や建物をそれぞれ左の項目に該当することをを行った時に、対応する税の種類を右欄に示している。

表1 税金の種類

取得に掛る税	不動産取得税 (土地：4% 建物：非住居4%・住居3%) 住宅35m ² 以上は1戸につき12,000千円の控除がある 登録免許税 (土地：5% 分筆登記済みの部分0.6% 建物：0.6%)・印紙税 特別土地保有税 (基準面積2,000・5,000・10,000m ² 以上のとき：3%—不動産取得税) 公益性格などのときは除外 事業所税 (2,000m ² 以上の事務所などの事業所建設：延べ床に対して6千円/m ²)：建築主に掛る (指定市に限る) 消費税 (建物工事費・設計料・負担金の合計：これを建設費と言う) の5%
保有に掛る税	固定資産税 (土地・建物：1.4%) 小規模宅地 (200m ²)の特例あり 都市計画税 (土地・建物：0.3%) 小規模宅地の特例あり 特別土地保有税 (基準面積以上の保有：取得費×1.4%—固定資産税、遊休地：取得または時価×1.4%—固定資産税—保有税) 工場・学校・病院・福祉・住宅・公益的性格用地は除外 事業所税 (1,000m ² 以上の事業：600円/m ² +100人以上の従業員給与×0.25%)：事業者に掛る
運用に掛る税	所得税 (法人税)・住民税 (法人住民税) 事業税 (建築主の場合：アパート5棟10室以上などの規模をこえる時)：(所得金額-2,900千円)×5%
譲渡に掛る税	所得税 (法人税)・住民税 (法人住民税)・印紙税・国民健康保険税
相続・贈与	相続税・贈与税・登録免許税・不動産取得税・特別土地保有税

知っているると便利な事項をいくつか列挙しよう。

消費税の還付—消費税の原理は、売上と仕入れの差額に対する5%を収めることになっている。建設費は仕入れであり、これによる賃料収入は売上である。通常1年間の売上賃料は仕入れ建設費の1割程度なので、仕入値段のほうが大幅に上回る。設計・工事などの消費税は一旦支払ってあるが、払い過ぎであることを理由に竣工1年後に所轄の税務署に還付請求すると約9割の消費税 (設計料に匹敵する) が返ってくる。ただし賃料に消費税がつかない住居系などの建物は対象にならない。還付請求するための手続きは、工事中に消費税の課税業者になること・納税は原則課税方式によることの届けをしておくことが必要。

固定資産税の減額—住居系の建物では土地の固定資産税が更地に比べて減額される。1戸 (共同住宅の各戸も) に付き200m²の土地 (小規模宅地と言う) を対象として、固定資産税が1/6・都市計画税が1/3になる。

相続税対策—資産を5億円以上持っている場合には積極的に相続対策をする必要があるとされている。現状の納税額を把握した上で、資産の評価減対策を考える。

- 資産を評価の低いものに置きかえる (現金から土地や建物に)
- 借金はマイナス財産である。これで建物を建てる。建物評価は実際費用の約1/2であるから概ね借金の半額が資産減らしになる。ただし事業採算が成り立つことが前提。
- 更地 (空き地・駐車場・自宅・自社ビル) の土地を貸家建付地 (建物を建てて他人に貸す：路線価×借地権割合×0.3だけ資産評価が下がる) とする。

相続税額は表2、表3のようになるが、遺産額5億円で妻と子供2人のときは、子供2人が支払う相続税が61,700千円である。これをどこまで下げたいかで事業規模が決まる。例えば納税額を500万円程度にしたいとするならば表をさかのぼって4,480千円のところを見る。このときの遺産額は2億円であるから、差引き

3億円の資産評価減を事業の目的とする。一口で言えば、下げたい評価の約二倍の事業規模とすれば良い。従って総事業費6億円を設定金額とすることになる。

表2 相続納税額表 1 (配偶者と子のケース), 単位千円

遺産額	子1人	子2人	子3人	子4人
100,000	0	0	0	0
200,000	5,720	4,480	3,740	3,140
300,000	28,747	23,987	20,977	18,667
400,000	50,800	43,200	38,850	35,750
500,000	72,300	61,700	56,600	52,000
600,000	97,300	84,200	76,600	72,000
700,000	122,300	106,700	96,850	92,000
800,000	147,300	129,200	119,350	112,000
900,000	173,800	152,700	142,100	132,000
1,000,000	203,800	180,200	167,100	157,000

遺産額は基礎控除前の財産・債務の評価合計額
配偶者控除は最大に活用 (1/2もしくは160百万円)

表3 相続納税額表 2 (子だけのケース) 単位千円

遺産額	子1人	子2人	子3人	子4人
100,000	7,300	3,700	2,000	1,000
200,000	40,800	28,600	21,900	17,200
300,000	84,800	61,600	50,400	42,200
400,000	134,800	101,600	82,400	72,200
500,000	188,800	144,600	122,400	103,200
600,000	248,800	194,600	162,400	143,200
700,000	308,800	244,600	204,400	183,200
800,000	368,800	294,600	254,400	223,200
900,000	428,800	347,600	304,400	264,200
1,000,000	488,800	407,600	354,400	314,200

■事業収支の立て方

事業費の算定はどうしたらよいか。その上で収支の見極めが出来ないと、事業計画のイニシャティブが取れない。

金額の数値を第三者に握られて、建築家は図面だけを作っていればよいと言うようなプロジェクトでは、無駄な計画ばかりさせられる羽目になる。表4は私が作成した簡単に出来る収支判定表である。詳細な計画に入る前に事業の成立の可否を判断するのに役立つ。

表4 事業収支の判定表

イ	工事費の算出	A	総工事費
ロ	総事業費	A×1.15	1.12~1.15~1.19
ハ	借入れ金額		
	借入れ期間 () 年		15~20~25年
	利 率 () %		3.0%~5.0%
ニ	返済月額の算出	B	償還率表から
ホ	所要賃料	B×1.2	1.15~1.2~1.25

* (ロ) 総事業費：プレハブなどの規格品で住居以外のものは1.2、店舗・事務所・倉庫系は1.15、住居系は1.19 (賃料に消費税がついているかいないかで分れる)

* (ハ) 借入れ期間：店舗・事務所系は20年 その他は25年。30年は長すぎる。

金利は当初10年間は3%、以後は5%と想定

* (ニ) 返済月額：次表の係数を借入れ金額に掛けると元利金などの月額を得る。

元利均等償還率表

金利	15年	20年	25年
3.0%	0.006905816	0.005545976	0.004742113
4.0%	0.007396879	0.006059803	0.005278368
5.0%	0.007907936	0.006599557	0.005845900
6.0%	0.008438568	0.007164311	0.006443014

* (ホ) 所要賃料：収益性が高いものほど係数が大きくなる (税額が大きいので)。通常は1.2で計算。

この表をイ→ロ→ハ→ニ→ホの順に計算していく。

(ホ) の所要賃料が求めたい数値であるが、これは収支が赤字にならないためのガイドラインなので、実際に取れる賃料がこれよりよいということではない。事業の決め手となる税引き後の手取り収入 (剰余金) は、

$$(\text{実際賃料} - \text{所要賃料}) \times 75\% \text{程度}$$

と見ておく。事業主がどの程度の収益を求めているのかを確認し、それに見合ったテナント付けが出来るかの調査が先決である。そのためにテナントリーシング会社との連携が重要であると以前に説明した。ところで地主は自分の土地は世界で一番良いところだと思っている向きが多い。従って収益も相場を上回ったことを言いがちである。我々は客観的な立場で、常識を教える必要もある。なお所要賃料が実際賃料に満たなければ計画は即座に変更となる。この程度の計算は、面積ボリュームとレンタル比を設定しさえすれば出来る。無駄な時間を空費しないために有効に活用していただければありがたい。

(終り)

〈(株)田中建築設計事務所 主宰〉

JIA 関東甲信越支部広報委員会 宛

JIA 継続職能研修 (CPD) 申請書

誌上セミナー「ファイナンシャルビジネスのすすめ」

CPDプログラム：1単位

申請年月日

年 月 日

氏名 (必記入)

会員番号 (必記入)

メールアドレス

第1回 〈お金のことをもっと知ろう その1〉 9月号

感想：

第2回 〈お金のことをもっと知ろう その2〉 10月号

感想：

第3回 〈お金のことをもっと知ろう その3〉 12月号

感想：

第4回 〈お金のことをもっと知ろう その4〉 2月号

感想：

提出先・問合せ先：JIA 関東甲信越支部広報委員会 (担当：原田)

TEL：03-3408-8291 FAX：03-3408-8294

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階

社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2003年度役員改選結果公表及び補欠選挙について

選挙管理委員会
委員長 大竹 比呂志
第2回告示2003年1月15日

2003年度支部役員選挙に関し、12月13日の締切日までに下記の方々から立候補の届出があり、12月17日における選挙管理委員会にて、立候補届出書に基づき、立候補者に関する資格審査を行いました結果、いずれも役員選出規定及び役員選挙細則による立候補者並びに推薦者としての資格を充足し、適格であることを確認するとともに、各改選の内自由選挙につきましては定員の立候補でありましたので、全員を無投票当選として確定致しました。

また、地域会の改選の内神奈川・千葉・栃木・群馬・山梨・長野・中野・西東京の地域については定員の立候補でありましたので、全員を無投票当選として確定致し、JIA東京については立候補がありませんでしたので、役員選出規定第3条4項及び役員選挙細則第5項・第9項により、補欠選挙を行うこととなりましたので告示致します。

◇ 幹事当選者

神奈川地域会 (改選数1名) 小澤勝美
千葉地域会 (改選数1名) 村山嘉弘
栃木地域会 (改選数1名) 武井貴志
群馬地域会 (改選数1名) 岡田敦志
山梨地域会 (改選数1名) 奥村一利
長野地域会 (改選数1名) 松下重雄
中野地域会 (改選数1名) 福島賢哉
西東京地域会 (改選数1名) 富松太基
自由選挙 (改選数7名) 上浪 寛
鯨井 勇
坂野 茂
柴田知彦
田嶋成幸
寺本晰子
松枝雅子

* 幹事当選者の略歴・所信等につきましては、Bulletin3月15日発行号にて掲載致します。

〈補欠選挙について〉

上記報告致しました、立候補のなかったJIA東京につきまして、役員選出規定及び役員選挙細則により補欠選挙を実施致しますので、下記の点につきご留意の上、立候補を期待致します。

1. 補欠選挙人数：JIA東京 1名
2. 選挙権と被選挙権及び任期
 - 1) 選挙権：選挙権を有する会員とは、選挙告示日の1ヶ月前（2002年12月15日以前）に正会員としての資格を有する者。
被選挙権：被選挙権を有する会員とは、選挙告示日の1ヶ月前（2002年1月15日以前）に正会員としての資格を有する者。
 - 2) 役員の任期については、支部規定により以下の通り規定されております。
第7条 役員の任期は2年とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。
但し、社団法人日本建築家協会役員選挙基準及び細則により選出された支部長、副支部長の重任は妨げない。

3. 立候補：幹事の立候補には次の2通りの方式があります。

- (1) 自立による立候補
- (2) 正会員3名以上の推薦を得た推薦立候補

4. 立候補届出の期限

立候補届出については、所定の届出書式により持参又は郵送により選挙管理委員会宛に提出願います。

届出期限は 2003年2月7日（金曜日）です。

〈必着〉

5. 立候補届出用紙は、支部事務局に用意しておりますので、ご来訪いただくか、お電話（TEL：03-3408-8291）をいただければご送付致します。

ほぞんもんだい

丸ビルは残らなかったけれど



保存問題委員会 大澤 秀雄



丸ビルが大変な人気です

最初はオープン直後の一時的なものと思っていたのですが、人気不衰のまま歳末商戦に突入し、相変わらずの人出が続いています。この人気のお陰で、丸の内の街が大きく変わりました。「街が」というよりも、正確には「街の風景が」といふべきかもしれません。地上を歩く人の数がとても増えたのです。「地上を歩く」というと当たり前のことのようにですが、かつて東京駅と旧丸ビルとを結ぶ人の流れは圧倒的に地下が多かったのです。「丸ビル地下道」という通路があり、オフィスワーカーが一目散に会社へと向かうのはまことに好都合なものでした。お陰で地上は人影が少なく、動いているのは車ばかりという状況でした。特に酷暑の夏や北風の冬、それに雨の日にはこの傾向が顕著でした。それが、丸ビルのオープン以来ガラッと変わったのです。グランドレベルを多くの人達が行き交い、街に彩りと活気が感じられるようになりました。さらに面白いのは、街を歩く方々の人相風体が変わったということです。以前はスーツ姿のビジネスマンやOLばかりが目立つ街でした。しかし、このところ目立つのはむしろ、年輩のご夫婦とか独自のファッション感覚を持った若者達、それに目新しいところなら何処にでも出没するおばさま族です。流石にストリート系の少年少女までは今のところ出没していませんが、

一つの建物をきっかけとして街が変わる、実はこれと同じことが79年前の丸の内にも起こっていたのです。三菱地所社史に面白い記述がありますので、少し長くなりますが、引用してみます。「開館前から丸ビルの人気はすこぶる高かった。とくにビルの地下1階から2階に商店街を開き、『公衆の出入自由』のビルとしたことは万都の関心を引いた。『食う物、買う物、何でも彼でも御意の儘 願る便利に出来上がった丸の内ビルディング』(東京日日新聞、大正12年1月27日付の見出し)であった。その

うえ、弁護士や会計士などの事務所、建築家、特許弁理士、医者と歯医者、雑誌社、学会などの自由業的かつ知的な店子がたくさん入居してきた。これもビルに知的で文化的な雰囲気を生み出すものになった」とあります。

社会的なインパクトとしては、むしろ79年前のほうが大きかったかも知れません。そして、我が国初のビル内商店街や出入り自由の共用部、エレベーターなどを持っていたことなどが人気を呼び、多くの見学者や観光客を集めたのでした。その結果、それまで「一丁倫敦」と呼ばれたオフィス街は、実に雑多な人々が跋扈する、華やかで活気のある街へと変身したのです。

丸ビル建替の計画が発表されるや、各方面から多くの保存を求める声が上がりました。JIAも保存問題委員会を中心に、保存要望書の提出をはじめ様々な活動を行いました。しかし、結果はご承知の通りです。

そして、丸ビルは二代目になりました。今、丸の内の街には79年前と同じように種々雑多な人達が溢れています。丸の内は、ビジネスに特化した単純で機能本位の街から、エンターテインメント性をもった複雑で面白い街へと変わりつつあります。新しい丸ビルがそのための大きな力となっていることは疑う余地がありません。かつての丸ビルが79年前に果たした「街を活性化させる」という役割を、新しい丸ビルも立派に果たしていると言えるでしょう。残念ながら丸ビルを残すことは出来ませんでした。丸ビルが持っていた建築としての価値は失われてしまいました。しかし、丸ビルがその74年の生涯をかけて築いてきた丸の内という街の文化、伝統はしっかりと受け継がれたのではないかと感じています。

今、丸ビルを訪れる方の中には、多くの丸ビルOB、丸の内OBの方々が含まれています。そうした年輩の紳士淑女の表情は、一様に晴れやかで誇らしげです。

〈(株)三菱地所設計〉

丸ビル開館を伝える「東京日日新聞」
(大正12年1月27日付)

保存問題長野大会

テーマ「住民に支持される保存とは」

サブテーマ「地域社会で望まれる建築家の役割」

長野地域会 依田 政司

2月22日・23日と長野市・須坂市において「保存問題長野大会」が開催されます。今回はその概要と日程についてお知らせします。

第一日目は、13:00に「長野国際21」に集合していただきバスに乗って須坂へ向かいます。蔵の町として有名な須坂は、昭和61年130名の地元有志によって設立された「須坂町並みの会」の保存、改修運動の成果として、製糸業で栄えた往時の町並みを偲ぶ事が出来ます。

案内講師は町並みの会会員が担当されます。見学のあと長野市に戻り、メイン会場となる「長野国際21」と創業300年を誇る善光寺門前にある「御本陣・藤屋」(登録文化財)に分宿していただきます。

チェックインを済ませ、18:30より「長野国際21」において懇親会を行います。

旧交をあたため、保存談義に花をさかせながら夜の更けるまでお楽しみください。

第二日目は、9:30より新社屋建設が間近な信濃毎日新聞本社ビルを見学します。その後御本陣・藤屋をはじめとした善光寺周辺の町並みを地域会担当者の説明案内により見学します。

各自昼食の後13:30より「長野国際21」において「保存問題シンポジウム」を行います。テーマは「住民に支持される保存とは」として、パネルディスカッション形式で行います。

パネラー講師は、工学院大学助教授・後藤治氏、須坂町並みの会会長・浦野治郎氏、地域会・川上恵一氏、コ

2月22日(土)

13:00 ●長野国際21に集合 受付

14:00 ●須坂町並みウォッチング
↓
説明案内「須坂町並みの会」

16:30

17:30 ●長野国際21チェックイン(メイン会場)

17:30 ●御本陣・藤屋チェックイン(登録文化財)

18:00 ●懇親会・長野国際21 受付

↓

2月23日(日)

9:30 ●信濃毎日新聞本社見学 受付

↓

10:30 ●地域サミット 御本陣藤屋・食堂
●御本陣・藤屋見学 説明案内:地域会担当者

↓

12:00 ●善光寺周辺町並み見学 説明案内:地域会担当者

↓

●各自昼食

13:00 ●保存問題シンポジウム 国際21・受付

13:30 ●「住民に支持される保存とは」
コーディネーター:保存問題副委員長 安達治雄
パネラー講師:工学院大学助教授 後藤 治
須坂町並みの会会長:浦野 治郎
長野地域会:川上 恵一

↓

17:00 ●終了・解散

ーディネーターは安達治雄副委員長を予定しています。住民主体の活動を続けてきた「須坂町並みの会」のこれから、素晴らしい歴史的遺産がありながら地盤沈下が著しい善光寺周辺地区、そして新社屋完成とともに歴史的役割を閉じようとしている信濃毎日新聞本社ビル。

保存に係わる問題は、各地において様々な形態で存在します。住民と共に豊かな社会をつくる為に、私達建築家に何が期待されているのでしょうか。多くの方に参加していただき、共に考え、話し合いたいと思っています。

〈(株)依田建築設計事務所 主宰〉

参加申込書

	A	B	C
1日目・2日目見学のみ		○	
懇親会のみ			○
見学・懇親会・宿泊	○		
保存問題シンポジウム	○	○	○

Aコース=¥20,000 Bコース=¥4,000

Cコース=¥6,000

コース選択	A	B	C
氏名			
住所			
所属			
TEL・FAX			
ホテル選択	長野国際21	藤屋	
日本建築家協会関東甲信越支部事務局: FAX 03-3408-8291			

委員会部会活動報告

デザイン部会

一つの作品に一つのドラマ

9月例会「日本の前衛を再考する」：講師・長谷川逸子

向川 優子



昨年9月20日(金)JIA会館3階セミナールームでデザイン部会の今年度第6回定例会が開催された。現在、広く活躍され、世界を代表する建築家、長谷川逸子さんをお招きしてお話をうかがった。

長谷川逸子さんの作品紹介

- ① 焼津の家をはじめとする初期の小住宅が長谷川さんの原点であることを知る。
- ② コナビレッジ：259戸からなる賃貸住宅。9棟を空中ブリッジで結んでいて全体はグリーンヴィレッジの様相。43m²位の標準タイプになっており、可動クローク、可動ウォールをオプションとして、異なる生活を引き受けられる新しいプロトタイプを目指して造られた。逆梁の採用により、垂れ壁を消して建具を天井まで取っている。
- ③ 長野今井ニュータウン：1998年の冬季オリンピックの選手村として利用され、その後公営住宅、企業住宅となる。1000戸の住宅を7ブロックに分けている。共有廊下に集会スペース、ルーフガーデンなどを配置しながらつなげてゆくコミュニケーション・ネットワークスが特徴。各戸のエントランス部分には、廊下からのプライバシーの確保、通風や採光のためのライトウェルを設けた。バルコニーと一体となるガラスルームは、冬はサンルームとなる。この計画は若い世代が積極的に地方で生活する、また高齢者が共生する可能性を追究した。
- ④ 滋賀県立大学体育館：体育館にアプローチ側と野球場のある側は、オープンな全面ガラス張りになっている。採光と視覚的透明性を確保している。屋根は薄く軽快なシェルターで出来ており、これを支える柱と束材が樹木状に並ぶユニークな鉄骨建築。
- ⑤ カーディフベイ・オペラハウス：

カーディフ湾の大規模な再開発。湾岸の中にひとときを輝く、光のオペラシップを出現させた。ホワイエ上部には大型のスクリーンが設置され、海に向かって開かれた屋外劇場となる。鉄骨造のつくる透明感のある建築でした。

- ⑥ 湘南台文化センター：1986年公開コンペより最優秀賞に選ばれた複合施設。子供館、公民館、市民シアター、プラネタリウムが備わっている。地球儀、宇宙儀、屋上緑化そして広場などのオープンハウスが印象的でした。
- ⑦ すみだ生涯学習センター：広場の中にいくつものブリッジが走っている。文化交流、メディアセンター、生涯学習の機能を持つ。3ブロックに分棟配置され、水をうまく利用している。
- ⑧ 山梨フルーツミュージアム：フルーツの生命力の多様な存在様式を表現する分散された諸施設の一群。「くだもの広場」は種が成長した大きな木のイメージ。「トロピカル温室」は芽を出そうと上に伸び上がる種子のイメージ。「地下展示室」はフルーツの遺伝子の世界。「くだもの工房」は種を増やしていく生命力に秘められた異型性のシンボルを与えられている。ミュージアムは地下に埋込まれて次々につながっている。
- ⑨ 新潟市民芸術文化会館と白山公園：1995年に公開コンペで最優秀賞の公共ホール（200席アリーナ・

コンサートホール、900席シアター、400席能楽堂）とランドスケープデザイン。外壁のガラス面にセットされた省エネシステム。ホールの特徴ある設計。7つの浮島状の屋外ホール。それらをつなげるブリッジで構成されているランドスケープ・アーキテクチャーとしてのデザインはユニークでありながら快適そうだった。



長谷川逸子氏

植田実さんの長谷川逸子さんの論考

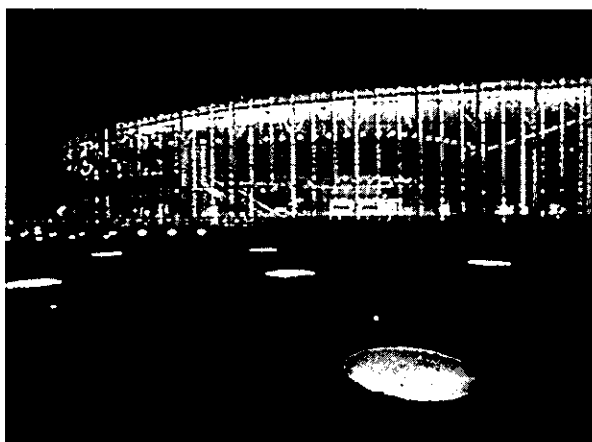
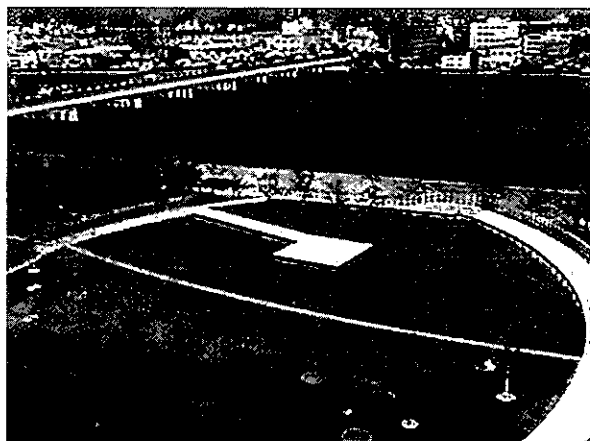
長谷川さんの作品を理解するには、直に行って見るのが良い。中は明るくとてもきれいで、働いている方もとても元気。作品は充実していて手がたく軽いけど堅い。パンチングメタル、軽量鉄骨をよく使用されている。とてもソフトの面を大事にされている。

人との関わり

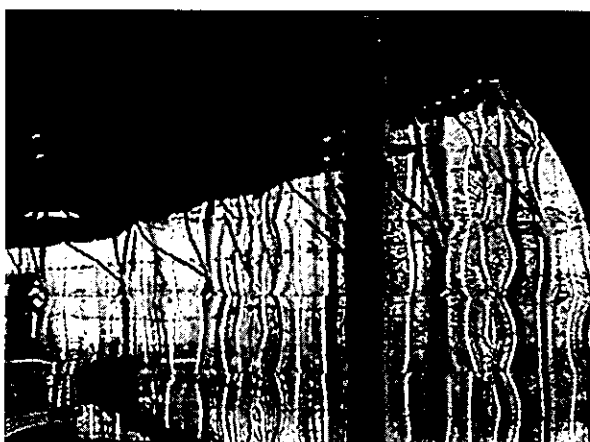
同じプロジェクトのスタッフ、住む方、使う方、その作品に携る周りの「人」に対しての接し方にとっても共感を持てた。設計の段階からアフターケアまで気を抜かない。納得いくまでスタッフと議論し合い、使用する側の意見を聞き、希望する物に対してそれに答えるために突

き詰める。その労力、かける時間を惜しまない。そして型にしていく。一つの作品に一つのドラマができる。女性のきめ細かさが出ているように伺えた。その長谷川さんの魅力が海外の方にも伝わっているのだと思う。作品がそれを物語っていると思う。だからといってスケールが小さいわけではなく、日本、海外を問わず手掛けられた作品は学生時代に構造のコースを受講されていた長谷川さんならではの鉄骨を使われた、壮大で大胆なものが多い。その時にも身に付いた心身の身体スケールの応用は辞められなかった。女性建築家として、目に見えないところでの計り知れないご苦労があったのではないだろうか。

〈インテリアコーディネーター〉



新潟市民芸術文化会館



JIAトーク2002第1回

指揮者大友直人氏をお招きして

「世界と日本の音楽界の近況」

大友直人（指揮者）

2002年6月6日(木) 時間：18:30～20:30

場所：建築家会館1Fホール

最初にJIAトーク実行委員会 小倉委員長より挨拶があり、音楽をまじえながらの、非常に洒落な公演が始まった。

若い世代の講演者をという声に応え、40歳代のコンダクターの登場となった。非常に多忙な大友さんを、掴まえることが大変で、本会会員の長島孝一さんのお嬢さんである大友夫人に、ご連絡しながらの講演であった。

小沢征爾さんたちが頑張っておられた、初期の桐朋学園大学を卒業後、22歳でNHK交響楽団の指揮でデビューされるなど、若くして頭角を表されていた氏は、40歳前半とは思えないほど、華々しく音楽界で活躍されている。

私は、コンダクターの役割は、建築家の役割と非常に似通った境遇ではないかと思っていたが、大友さんは、あえて建築家は作曲家と同じと位置づけられ、指揮者は、現場の労働者であると言われた。オーケストラやオペラの全曲を理解し、演奏家たちの能力や、技術を存分に発揮させる指揮者の仕事は並大抵の努力では動まらない大変な職業だと思うが、建築家の監理の仕事と共通する面があるかも知れない。しかし、瞬間的な集中という点においては、遥かに凝縮した能力を必要とされると思う。

その後で、指揮者としての大友さんの日常の生活ぶり



にふれられたが、そのハードなスケジュールに驚かされた。何か公演をする場合、その前に3日間、毎日5時間のリハーサルがあり、11時から5時間あったとすると、今日は東京交響楽団とやっていたのだが、オーケストラの連中は6時から9時まで別のリハーサルとダブっているという、ハードスケジュールである。

東京には8つの交響楽団があり、NHK、読売、東京都の3つの交響楽団はバックを持って安定しているが、他の5つの交響楽団はバックなしに活動している。全体で年間に150回位の演奏会を開いている。東京には素晴らしい演奏会場があり、集中度においては世界一であり、世界一クラシックの演奏会が多い都市である。欧米と違うのは、演奏のリピートができない1回限りの演奏会がほとんどだということ、オーケストラの人達や指揮者のハードなスケジュールとなっている。ボストンなどは、週ごとに決まっていて、月に4種類で良い。年間の公演回数は150回/日本、200回/米だが同じプログラムを月4回やるのと、別々のプログラムでやらなければならない、日本の実情は比較にならないほど厳しい。

日本のオーケストラの質は、ウィーン、ベルリンなど超一流のところを除けば、世界中どこに出しても恥ずかしくない。しかしハードさが災いしてか、外国人の演奏家で日本のオーケストラに属している人は日本人と結婚している人だけという現実、欧米のオーケストラで日本人がたくさん活躍している現状を考えると、寂しい点もある。演奏の技術などについては、世界で一流と言っても過言ではない。

次に、作曲の世界のことにふれられた。バッハ、ベートーベン、ブラームスといった、音楽でなく、同じ世代を生きる作曲家の演奏をやりたい、紹介したいと常々思っているが、現代音楽が演奏曲目に入ると集客が落ちるという現実もいなめない。

70年代までの前衛音楽の実験的な要素にアレルギーが生じてしまったようである。80年代、90年代になると、勢いが拡散し、色々な考え方を持つ人が出てきた。

一つの生き方の例として、三枝成章さんのことを取り上げられた。60歳を迎える今、15年位かけて新しいスタイルを作りたいと言っておられるとのこと、三枝さんの20代30代は前衛音楽の旗手といった感じであったが20年位前から方向を勇敢にも変換されたそうである。

現代音楽だけで、食べていけたのは武満さん位で、映画音楽、コマーシャル、商業音楽など、みなさん手がけられている。三枝さんも40歳前後で前衛から足を洗って、本当に書きたい曲を書くようになり、大衆に迎合して墮落した音楽家などと風当たりは強く評価が下がるぞと言われたが、本当の意味のアカデミックな音楽を前衛を踏まえた上で書いておられる。

島田雅彦さんという素晴らしい脚本家の作品『忠臣蔵』を作曲され、大友さんの指揮で東京交響楽団が演奏されたが、公演が終わるころには、オーケストラのメンバー

が台詞を全部覚えてしまうというような、分かりやすい台詞と、演奏後聴衆からすすり泣きの声が続かなかった、人々に非常に印象を残すオペラだったとの事。

聞いている人には心地よい音楽でありながら、随所に仕掛けがされており、オーケストラのメンバーからは、すごく難曲だと言われたとのこと。

同じ頃演奏された、第二国立劇場のオープニングオペラ『たける』が終演しても、何も覚えていなかった例と比較して例示された。

国立劇場が出来たからといって、なぜ『忠臣蔵』とか『たける』とかを題材にするのだろうか、食わず嫌いに敬遠していたが、聴衆を泣かせる、また台詞が覚えられるオペラだったと聞いて不明を恥じた次第である。

最後に『忠臣蔵』の一部の演奏を聞きながら、大友さんの講演を拍手を持って終えた。 (リポーター：上浪 恒)

こんな本読みました

久保田秀男著

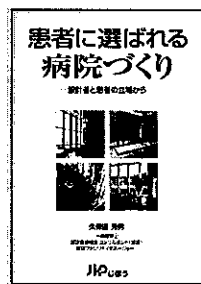
「患者に選ばれる病院づくり」

ソフトに対する建築家側からの提案 高木 恒英
筆者の久保田氏は日建設計で30年にわたり多くの病院建築の設計に携わった建築家です。本書はたんなるノウハウ本ではありません。本のタイトルが著者の設計思想をそのまま表していると言えます。「先生がいらっしゃいますからしばらくお待ち下さい」という看護婦の言葉が、「医師がまいりますので……」であったら将来は明るいのに……という話から始まる本書では、筆者の視点はつねに患者側にあるようです。

読んでいくと、これはたんなるハードとしての建築

設計を越えて医療というソフトに対する建築家側からの提案ではないかと……まさにそうなのです。設計とは、ほんらいハードとソフトが切り離せないところに成り立つということを再認識させてくれた書でした。

〈(株)インターセクション〉



著者：久保田秀男
発行：じほう
平成13年10月25日発行
A5版/276頁
定価：2,400円

都市デザイン

勝手連的街づくり

個別建築アクションが街を救う



青木 仁

今まさに、都市生活者一人一人の手による「勝手連的街づくりの時代」の幕が開こうとしている（と私は信ずる。以下同じ）。都市の急成長時代は終焉した。都市の骨格はすでに概成し、人々はすでに都市の中に自らの居場所を定めている。このことは、これからの街づくりの基本シナリオが、大型プロジェクト中心の広域的「都市開発」から、都市生活者自身の視点に立った即地的「環境改善」へと変容してゆくことを意味する。国家・地域開発戦略より、街の使い手である都市生活者自身の主体的「街直し」発想が重要になる。私たち一人一人が街づくりを担う時代になる。

教科書的都市計画規範の目指したものは、20世紀100年の大きな都市化の流れの中で、ほとんど実現されなかった。一方で、実際に形成されてきた市街地は、教科書の規範からは逸脱していても、都市生活者にとって、多くの場合快適な、悪くともそれなりの生活環境を提供してくれている。不満はあるが、誰もその解消策を現在の都市計画に期待していない。それを学者や官制プランナーが失格市街地と指弾したところで人びとの共感を得られない。そもそも白地の上でさえ実現できなかった教科書の規範が、広範に形成された既成市街地で実現できるはずがない。無力な「都市計画規範」は捨て、実際の街の改善に的確につながる新たな「街直し方法論」を手に入れるべき時なのである。

欧米の建築行為は、ブロックやエステート単位の集合的なものが主流で、その担い手は個人ではなく法人である。それに対し日本では、個人による個別敷地ごとの建築行為が一般的である。だからこそ、都市生活者一人一人の個別建築アクションによる街直しの試みが世界で初めて可能となるのは、この日本という国において他にない。にもかかわらず、個別建築行為のもつ街づくり能力

を否定し、敷地の共同化など建築行為の集合化こそが善であるとする官論・学説が根強いが、現実理解を欠いた空論である。

建築物は多く「私有財産」である。その建設に大金を投じているのは私たちである。だから、それが地震や火災に対して安全で、耐久性高く、不動産価値も維持されるよう発意すべきは私たち以外にない。行政にも、そこまでの当事者意識はない。街づくりのスポンサーである私たち自身が、自助の精神を奮い起こし、可能な限り賢く自衛的な建築行為を志向しなければならない。そして、それを豊かな発想力と信頼性高い技術力によって支援するのがデザイナー諸氏の役割である。

これからの街直しの時代に、今最も有望だと考えるのが、個別敷地・建物のデザインに当たって、前面道路や隣接敷地・建物と「勝手に連携する」というデザイン姿勢である。従来型の、自らの敷地と建物にのみ関心を集中させた（隣りのことに我関せず）というデザイン姿勢では、周辺からの危害に対する防備も不十分、周辺環境への貢献も不十分で、結局は自らの建築投資の価値を低める結果になる。これに対し、自らの敷地の一部を前面道路に開放することによって勝手にコミューナルな空間を生み出したり、建物配置に当たって隣家の倒壊の防止にも役立つ敷地境界防御壁や前面道路不通の際に活躍する裏の敷地に通ずる代替避難通路などを敷地内に勝手に設けておけば、自らの生命や財産の安全性ばかりでなく、近隣環境全体の質の向上にもつながる。私の利益が近隣の利益になり、それが回り回って、また私に帰ってくる。そんな自衛的であると同時に社会貢献的なデザインを体現した建物の出現を（私は）心待ちしている。

〈都市基盤整備公団／居住環境整備部再開発部次長〉

建築家のアカウントビリティー

建築相談事例から見る



坂野 茂

本当に納得のいく家は三度建てなければ……と言われる。言い換えれば、二度目までは失敗してもあたりまえということでもある。世の中の施主すべてがこのようなおおらかな考えでいるならば、欠陥住宅問題も現在のよう注目されることはなかったのだろう。しかし現実では一生のうちに三度も家を建て替えることができるのは一部の富裕層だけであり、多くの場合は一生に一度ということになる。この一生に一度の大プロジェクトを、何が何でも成功させなくてはいけなくなるのだからこれは大変なことである。

建築相談室には、この一生に一度の家づくりに失敗し、様々なトラブルに悩んでいる方が多く来られる。一言にトラブルといっても幅広く、雨漏り、ひび割れ、床のきしみ、建物の揺れ、結露やシックハウスなど、トラブルの対象者も施工者、不動産業者、設計者と幅広い。中でも施工者に対する相談が一番多いが、建築家に対するトラブル相談も全体の1割程度見られる。時には残念なことにJIA会員に対する苦情相談があるのも事実である。欠陥のない住宅を建てる第一歩は、信頼できる家づくりのパートナーを探すことであり、この頼れる唯一のパートナーこそが建築家であるはずなのだが、ではなぜ頼れるはずの建築家に設計を依頼したにもかかわらずトラブルが起きてしまうのか。

近年の相談で多く見られるのが、「住宅雑誌を見てある建築家が気に入り設計を依頼したが、期待を裏切られた」、「建築家が要望を聞き入れてくれない」、「設計内容の説明が少なく、完成した建物が予想とかけ離れていた」、などというケースである。バブル経済崩壊後、雑誌の売上も軒並み落ちているようであるが、住宅を特集したものに限ってはなぜか別のようだ。書店はもちろん、コンビニエンス・ストアにも多くの建築関連雑誌（一般誌）が並び、売れ行き好調だ。まるで建築雑誌バブルの様相を呈している。これらの雑誌を見て建築家を選びきっかけとすることは、それ自体問題ないと思われるが、この情報だけで建築家を全面的に信頼してしまうのは危

険である。一般の建築雑誌に掲載される作品は、ガラスやコンクリート打放し、吹抜けを多用し、ビジュアル的には確かに素人受けするものではある。雑誌である以上売れることを最優先とするために、一般的なものではなく性能や居住性を犠牲にしても、ビジュアル的に優れた（素人にウケル）ものを掲載することになる。雑誌には、当然ながらマイナスの要素について触れられることはなく、クライアントとしては、入居して初めて雑誌では分からなかった恐ろしい現実に気がつくのである。ガラス張りの部屋に大きなトップライト、夏場はエアコンを入れても暑くて耐えられない。コンクリート打放しで断熱材の入っていない内壁には結露によるカビが発生したなど。

建築士法には、「建築士はその業務を誠実に行い、建築物の質の向上に努めなければならない」とある。建築の素人であるクライアントにとって、建築家は客観的な立場にありながらも、クライアントの利益を最優先に考え業務を行う、唯一信頼し頼れる味方である。建築家からの提案やクライアントからの要望が建物の性能、技術的にリスクを伴う場合には、プロフェッションとしてのアカウントビリティーが求められるであろう。建築家から見て計画に問題があるような場合には、計画の中止や変更を勧告すべきだろう。建築家のこうした姿勢がクライアントとの信頼関係を築ききっかけになるのではないか。

ミースも、ファンズワース邸において大幅な予算超過（予算4万5000ドルが完成したときには7万3000ドル）とそれに伴う金銭的なトラブルをめぐって訴訟を起こされている。本質的な理由は金銭問題ではなく、建築家との関係を求めた独身の女医エディス・ファンズワースと、建築にしか興味を示さなかったミースの間に生じた亀裂にあったといわれているようだ。ここまでくると建築家のアカウントビリティーにも限界があるのかもしれないが。

〈(株)ベル建築研究所 主宰〉

第40回アーバントリップ

紫色のガラスボール

都市の中に生き続ける近代建築



柳 雅夫

40回目を迎えるアーバントリップの案内、その見学場所のひとつに、駒沢給水塔とあった。生まれ育ったところに近く、閉ざされた敷地の中には何があるのだろうか、いったい建物の中はどうなっているのかと、子供の頃は想像を駆け巡らせることもあった。やがてそれは給水施設であり、建物は水で満たされているものと理解したのであるが、幼い頃の強い印象は、その機能を知るところとなっても、やはり心の中の一隅を占める。そんなわけで、「駒沢給水塔」の文字に飛びつき、「都市の中に生き続ける近代建築」をテーマとしたアーバントリップに参加させていただいた。その日、駒沢周辺のいくつかの重要な建物を見学する機会を得たのであるが、それぞれが建築史において輝きを放つ建物であるゆえ、限られた紙面で全てを報告することを控え、他の機会に譲ることをお許しいただきたい。

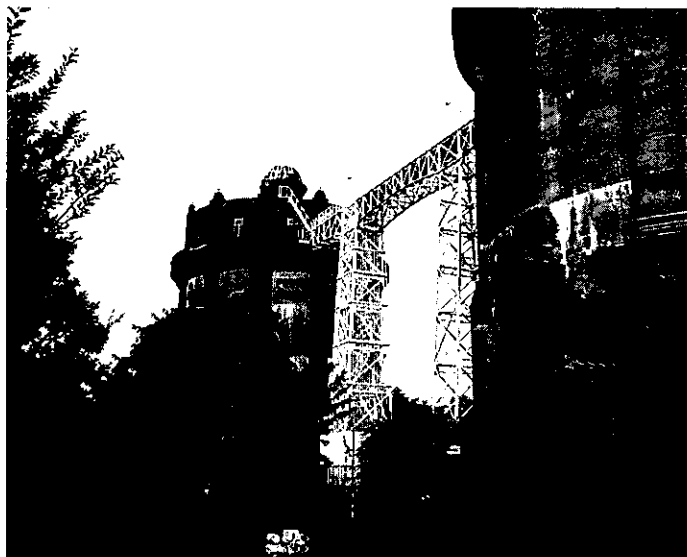
駒沢給水塔が建つ施設の全体は駒沢給水所といい、給水塔は正式には配水塔と呼ばれる。砧下浄水場からこの給水所を経由し、当時の渋谷町の人々へ水を供給するために建設した渋谷町々営の施設であった。竣工は大正13年。配水塔は、高さ25mで並列する鉄筋コンクリート製の円柱タワーが二つと、それを上部で結びつける鉄橋から構成され、貯めた水を自然流下させる。前年の大正12年には関東大震災が発生した。二つの塔は半年ずれて完成し、地震はちょうどその間に起こったのであるが、被害はわずかであったという。

円柱の周囲には12本のピラスターがあり、それぞれの頂部に紫色のガラスボールが照明装置として取り付けられている。屋根中央部にあるドーム付きの小さ

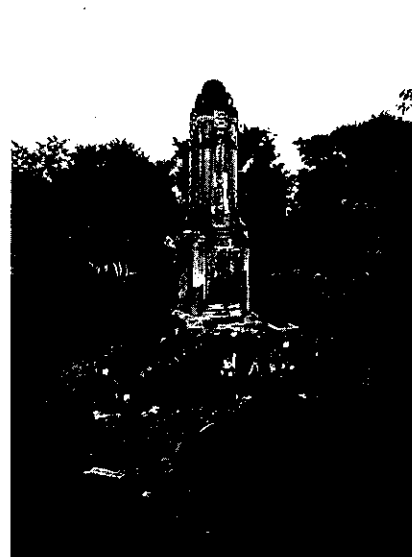
なパーゴラとともに、それらのボールは建物頂部をあたかもクラウンのようにしつらえる。私は点灯しているところを見た記憶はないが、当初は明りが灯されていたという。周辺が駒沢村と呼ばれた頃であり、昔の写真を見ると田園地帯の中にあるように見えるが、村といっても大正初年から、当時の不動産開発会社が、給水所周辺の桜新町、深沢といったところを新興住宅地として開発していた。紫色のガラスボールによって照らされた丘の上に建つツインタワーは、周囲に幻想的なイメージを与えたのではないだろうか。当時の新思潮である田園都市の構想に、格好の彩りを添える装置であったかもしれない。

敷地の中は以外にも美しい庭園であった。鯉が泳ぐ池もあり、表現派風の記念塔もある。配水塔としての当初の役割は失われたが、依然として災害時の給水施設として使われているため、整備も行き届いている。樹木が美しく手入れされていた。それが最後に強く残った印象である。心の一隅を占めながら、その風景を断片的にしかり知らない。しかしある日突然、それは眼前に開かれ、一瞬の後視界から消え去る。地上にありながら何か古代の空中庭園を訪れたような、まさに東の間のアーバントリップであった。

〈株)久米設計 主管〉



配水塔



記念塔

Aグループ

大土木工事から得られるもの

平成14年11月21日にAグループは勉強会を行った。今回は高田機工(株)の新田孝利氏により、本州四国連絡橋および東京湾アクアラインの工事を記録したビデオを見ながら、簡単な質疑を行った。

どちらも日本を代表する土木工事であり、そのスケールの大きさには、普段、建築に携わることの多い参加者から驚きの声が多く聞かれた。

講師の新田氏には、たくさんのビデオをお持ちいただいたが、時間の都合ですべて拝見することは、出来なかったが、見識を広める意味においても大変役だった勉強会であった。 Aグループ 賛助会員 (株)ジャスト 斉生仁志



研修会風景

Bグループ

横浜大棧橋見学を終えて

防水、左官、塗装の交流委員会Bグループは、昨年12月10日 サッカー・ワールドカップで一躍有名になった横浜大棧橋の見学に行ってきました。

クイーンエリザベス・クラスの超大型船が、同時に2隻着岸可能というスケールの大きさに加え、広々とした屋上のデッキ広場を見るにつけ巨大な未来の土木構造物というイメージに圧倒されメンバーも口をあぐり。

賛助会員の提供したエポキシ MIO防食塗料、および耐火塗料の説明があり、また正会員から特徴のある構造のわかりやすい説明があり、やっと余裕がでたところにタイミング良く日が暮れて、天井までの大きなガラス越しに、みなとみらいの夜景を満喫。大棧橋を後にして師走のライトアップされた市内の赤煉瓦の建物を眺めながら、全体会議、忘年会会場である中華街関帝廊近くの中華の店に向かいました。

店の自慢の創作中華料理と壺だしの紹興酒に皆話も弾み、2002年の活動を締めることができました。

Bグループ 賛助会員 大日本塗料(株) 唐沢伸明



Bulletinの

編集やホームページの編集をやってみませんか

支部広報委員会では、支部会報誌や支部ホームページの編集を行っています。月1回の委員会と、それぞれワーキング活動をしております。会報誌やホームページに興味のある方は、ぜひ委員会活動にご参加下さい。

また、Bulletinやホームページに関してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

JIA関東甲信越支部事務局 原田 (jharada@jia.or.jp) または、広報委員長高木 (takagi-inter@mm.newweb.ne.jp) まで

会員の声

設計監理の業務と契約

契約・法律WGのアンケート結果を「読む」



建築相談委員会 契約・法律WG 齊藤 智美

JIA会員への苦情が増加

建築設計界も国際化にともない建築家の業務責任を問われる時代となり、設計監理契約約款も平成11年10月1日（四会連合協定）に新たに制定整備されました。「JIAニュース」誌上でも「設計・監理に関わる法的責任と権利」の特集が掲載され、会員にたいして啓発を促しています。最近、設計監理業務について首都圏相談室で「JIA会員」への苦情が増加傾向にあります。次に「会員絡み」の事例を数件紹介いたします。

- ① 不況の時代でもあり設計監理料を「値切られ」、やむをえず契約をしたが、金額と作業内容が整合されておらず、建築主は設計者に「希望通りの業務をしていない」と違約金を請求したが、対応してくれないと困惑されて建築相談室に相談にきた。
- ② 作業内容を定めて合意して契約した。仕事が進んでいくと作業内容について設計監理者にたいして不信感がでてきて、希望どおり対応してくれないと建築相談室に相談にきた。
- ③ 設計者から設計監理業務内容の説明が不十分なため建築主が不信感をもち、相談にきた。
- ④ 竣工検査がなされてなく、ダメ工事・追加変更工事などの費用精算が明確にされてなく、困惑して相談にきた。

原因は次の2点と思われます。

- ① 「業務内容」と「設計監理費用」の整合性が明確にされていない。
- ② 昨今の社会状況に流された建築主と建築家双方の「無知と甘え」による。
 - ・ 作業が完了してない業務費用を事前に建築主に請求し、それを容認している。
 - ・ 設計者監理者の自分勝手の「思いこみ」を建築主に押付けていることの認識がない。

いずれにしても、色々な問題が複合していると思

ますが、建築家の本質である建築主との信頼関係がうすらいできて、建築主との対話も不十分になってきたことが原因と思われます。会員各位におかれましては設計・監理・契約については日常業務のことでもありますのでどのような対応をされているのか、またどのような点に留意されて業務対応しているのか、「設計監理の業務と契約」について各会員相互で認識の違い、取組み方の違いの有無と、トラブル原因の推定および是正内容の有無の確認を目的に、平成14年5月にアンケートの協力依頼いたしました。その回答結果を平成14年10月2日付けの「CPDセミナー」にて報告いたしました。その内容の一部を紹介し、各位の今後の参考になれば幸いです。分類は「A設計監理業務、B設計監理契約、C解約事例、Dその他」と大きく4つに分け、それぞれの結果を報告いたします。

アンケート結果

A. 設計監理業務

総体的に模範回答でした。会員各位日常の業務として真摯に取り組んでいますので、大変模範となる回答結果がえられました。基本設計の成果物で室内パース、展開図の提出されている方がおられました。建築主と建築家双方にとって「気配りされた設計姿勢」と思います。監理業務で建築主との関り方は現場での打合せ確認立会が7%と少数でしたが、定例会議への出席は99%と多い数値を得ました。

竣工時点での対応では工事完了検査申請書提出67%、検査済証の提出67%と同率の回答ですが、官庁検査立会92%とは開きがありました。その差25%は設計監理者がいても工事施工者が対応していることが推察できます。

B. 設計監理契約

設計監理料の算出根拠は独自の料率（旧家協会の料率も含む）によるが60%とありました。

全般的にほぼ良好な回答結果でした。しかし問題が数点潜んでいるように思います。「業務範囲を建築主の合意を得る事項でどのような書式を利用していますか」の回答で「知らない、使わない」が15%とありました。また「分離発注工事の調整業務」は建築主との合意事項であることを「知らない」と答えた方が33%とあります。これらの結果から推定しますと問題発生時にトラブルとなっていく要因になると思います。また、請求方法で作業していない業務相当費用も請求している場合があるような結果を得ました。あまり過多になると問題となるように思われます。

C. 解約事例

建築完成までに至らなかった事例が60%あることが分かりました。

中断されたのはいつの時点かでは、基本設計完了時38%、実施設計完了時50%、確認申請時も含めると63%になります。「何らかのトラブル」が発生してプロジェクトが中断されている結果を得ました。前々項A「実務業務」では大変模範的で優秀に取り組んでいることが推察できましたが、それに「反する」結果となりました。また、その時点での契約解除・解約については、「相互で合意して解約する」という回答が41%とありました。建設的でないことですが一応建築主との「対話は図られている」と推察できます。ただし、「建築主より一方的に解除された」が「設計者より解除した」の2倍です。この結果は業務「設計・監理・契約」以外の要因が潜んでいるように推察できます。独断と偏見により次のようなことが考えられます。

- ①建築家の資質とか人間としての性質・性格の問題によるのか。
- ②時代の変化「情報化社会による対話方法の変化」による「face to face」から「e-mail to e-mail」（造語）

への変化により建築家の本質である「細かい気配りのある対話」が欠けてきて、建築主と建築家の対話不足により理解度に「ズレ」が生じてきているのか。

- ③時代の変化の過渡期で、建築家もIT時代に振りまわされていて、時代に即した本質的なものを見直す時期に直面しているのか（IT時代のグローバル化により建築主の情報知識の豊富さとレベルアップなど）。
- また、設計監理者の債務を担保するための保険は「JIAの建築家賠償保険」を55%の方が利用していません。

D. その他品質確保促進法

「性能表示制度」についての対応は

- ①「建築主に推薦している」が4%と最も少なく、
- ②「話しているが推薦はしていない」が48%です。
- ③「要望がなければ話さない・話していない・利用しない」がそれぞれ26%・7%・11%で、合計44%と高い数値を得ました。消費者には有効な制度であっても、建築家に歓迎されてない「制度」なのかと驚嘆いたしました。
- ③の「話さない・利用しない」は他の法律・制度（消費者契約法など）との関連で問題が生じトラブル要因になるように思いますのでご注意ください。

以上、ご多忙のなか貴重な時間を拝借し「法律・契約WGのアンケート」に御協力をいただきました部会は、住宅部会・メンテナンス部会・デザイン部会・建築相談室です。各位の御協力に厚く御礼申し上げます。また、アンケート施行手続きに対応いただきました関東甲信越支部事務局、大変貴重な御意見をいただきました法律・契約WGの各位、主査飯田旭様には細部にわたりご尽力をいただきました。皆様に厚く御礼申し上げます。

〈T.O.M.建築研究所一級建築士事務所 主催〉

アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

アーキテクト・ガーデン2002を通じて支部の建築祭に思うこと



アーキテクト・ガーデン実行委員会委員長 伊平 則夫

アーキテクト・ガーデンは関東甲信越支部の建築祭です。支部は日本列島の一番厚みのある部分の、太平洋岸から日本海側までの広域に亘り、2000名を超えるJIA会員を要し、東京とその周辺には高密度に、また別の地域では低密度にその会員が分布するきわめて大きくて特徴的です。この支部全体が一丸となるのは、なかなか難しいと言わざるを得ません。支部の建築祭を東京で、そして銀座で開催することが遠方の地域会の会員にとって、どう言う意味を持つのかじっくり考えてみる必要があります。

建築祭の目的の一つは、建築家という職業について一般市民に理解してもらうということです。JIAの日常の活動のある期間に集約して、そこに非日常的なイベントを加え、対外的に強くアピールするのは、その目的に添ったことと思います。A1サイズのポスターが数百枚刷られ、支部全域の大学に送付され掲示されますし、営団地下鉄銀座駅構内に掲示されました。またA4サイズのチラシ数千枚が配布されるほか、JIAのホームページをはじめ、全銀座祭のホームページにも紹介されました。こうした広報活動は建築祭という形をとっているため、インパクトのあるものになります。一般への働きかけという点では、先ずこの広報に大きな意味があると思います。

今年はJIAのCPD元年で、会員に対してはこの建築祭が集中して単位が取得できるよい機会になったかと思えます。約620名が建築祭期間中のセミナーに参加しました。学生の参加が多いセミナーもありましたが、JIA会員の参加と、学生を含む一般の参加がどうなのか不明確だったようで、反省すべき点として今後は改善の必要を感じました。スケッチ展、メモ展、CG画廊、「晴れパネル」展などの展示会も集約して開催されました。会場が分散したこと、ビルの上階であったことなどで、一般の来館が期待したほど多くなかったようです。各種の展示がまとまって、グランドレベルに会場が設けられて、道行く人がふらりと入れるようだと良いのです

が、会場探しもなかなか難しいのです。これらのセミナーと展示に、建築相談室が二つ加わっての2002年建築祭でした。

お祭りのオープニング・パーティでは会員、賛助会員その他大勢の楽しい交流がありました。会場は地下2階、1階の吹き抜け空間で、装飾のあるインテリアの上下階に人が溢れ、スピーチ、音楽、スライドなどと共に楽しく歓談のひとつときを過ごしました。大変に活気のあるパーティで、JIAにはつくづく、芸達者な人が多いなあと感じます。

実行委員の方々の半年間に亘る準備のもとに、10月23日(水)の会場設営で始まった建築祭は29日(火)のサヨナラ・パーティで無事に幕を閉じました。収支は、別に報告致しますが、約230万円で、ほぼプラスマイナス・ゼロで終えることが出来ました。賛助を頂いた方々には、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

広報、参加・学習、交流がアーキテクト・ガーデンの骨格と考えます。それらを関東甲信越支部でまとまて行うことで、会員全体に何か意義の有るそして楽しいものにするべきなのです。今後の活動には次のkotoをふまえて取り組んで行くべきでしょう。

1. 中心地・東京と、近隣の大きくしっかり自立した地域会、遠方の小さな地域会、これらをいかに一つの輪の中に連携させるか。支部としてまとまった活動にするか。
2. 会員自身の活動(CPD、交流)と、一般・学生に向けての情報発信とを、明確にした建築祭の構築。一般の人々との交流を大きく、楽しくすること。
3. 新生JIA全国大会との関係での、支部建築祭の位置付けを考える。

関東甲信越支部の単位で、これからもまとまて、また連携して「建築祭」というイベントを楽しく続けて行くべきと思います。

〈株〉久米設計

銀座で4年目 メリハリの利いた内容

アーキテクト・ガーデン実行委員会副委員長 上 浪 寛

縁あって今年もアーキテクト・ガーデンのコアスタッフとして約半年間務めてまいりました。

工学院大学で6月に開催されてきたアーキテクト・ガーデンが、秋に銀座で行われるようになって今年で4年目です。銀座で開催されるようになった1年目(1999年)は9月に開催されました。銀座通り連合会では毎年10月下旬に「大銀座まつり」を催しており、連合会から会期が合わせられれば集客、広報で協力できるとの提案がありました。2年目(2000年)は10月下旬に会期を合わせましたが「大銀座まつり」が催事体制の大規模変革のため中止となり、再度アーキテクト・ガーデンの単独開催となりました。3年目(2001年)は「大銀座まつり」は「銀座アキュイユ」と名前を変え様々な協力を得ることができました。本年のアーキテクト・ガーデンはやるかやらないかという根本的な議論から始まり、開催が最終決定されたのは4月に入ってからでした。準備期間は短かったですが、伊平実行委員長の下「小粒でもインパクトのある建築祭を企画しよう」と、少ないスタッフ、少ない予算、少ない会場なりにメリハリの利いたアーキテクト・ガーデンが開催できたと思います。銀座連合会からの後援も多岐にわたり、無償で以下のようなご支援を頂きました。銀座連合会および関係者の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

1. 月間20万人より100万PV、1000万FH利用されている銀座の公式HP銀座コンシェルジュwww.ginza.jp上での告知と報告。(http://www.ginza.co.jp/inform/accueille02/index.html)
2. 銀座アキュイユ2002パンフレット30万部内で協賛催事として告知。
3. 営団地下鉄メトロニュース10月号銀座アキュイユ2002特集号40万部、駅貼りポスター200駅、車内吊り2週間2600車両で協賛行事として告知。
4. 銀座駅・東銀座駅・銀座1丁目駅にてアーキテクト・ガーデンポスターの掲出80枚、およびチラシ1万5000枚の設置および配布。

5. 銀座内6000店舗にアーキテクト・ガーデンチラシ配布。
6. 読売新聞にアーキテクト・ガーデンチラシ折込配布：1万部
7. 銀座アキュイユ2002併催行事として、月刊誌・週刊誌・新聞・テレビ・ラジオ・Webメディア・銀座内メディアに対して、一括メディアプロモーション。
8. NTTサービス東京 東京中央支店・NTTブローバと協力して、基調講演セミナーのブロードバンドでのデマンド配信。(BROBAキャスティングのタウン情報の中に、12月下旬よりアップしております。視聴に当たっては、事前にブローバトップページ <http://www.broba.cc/>にて登録の上、2週間の体験ID、PWをお受け取り下さい。)

今年はTEPCO銀座館を中心会場とし、会期は「銀座アキュイユ」と共催できる10月最終週の週末を中心に短くまとめました。本年はCPD本格導入の影響もあり、セミナーは各セミナーとも例年に較べ多数の参加があり大成功だったと言えるでしょう。反面、会員向けにシフトした企画が多数を占め、一般向けのイベントが少なく、後援を頂いた銀座連合会やTEPCO銀座館からはもっと一般客が参加できるようなイベントを立てて欲しいと要望がありました。今後はせっかくの機会ですから、アーキテクト・ガーデンを通して一般の市民に建築家の職能をアピールするため、より多くの皆さんの参加を募りたいと思います。また、一般市民向けを念頭に置き、対象のはっきりしたセミナーやイベントの設定をし、「一般市民にわかりやすい協会」のイベントとしてアーキテクト・ガーデンを捉えることが、結果として会員の日々の活動にも寄与できるようになると思います。今後の課題として建築業界もさることながら、インテリア業界など一般市民にわかりやすい他団体との連携も大いにやるべきではないでしょうか。

〈(株)構想建築設計研究所〉

アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

■会員交流セミナー

御雇い外国人建築家
ウォートルス

交流委員会セミナー実行委員会 中山 信二

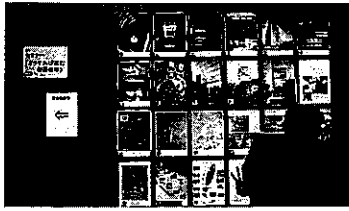
去る10月25日に銀座TEPCO館にて、交流委員会セミナー実行委員会主催の交流セミナーが講師に藤森照信東大教授を迎えて開催された。テーマはアーキテクト・ガーデン開催地の銀座煉瓦街を明治政府から委託され、企画から建設に至るマスターアーキテクトとして辣腕を振ったウォートルス(Waters)の生涯を辿り、煉瓦街の建設という華々しい成果によって我々の記憶に残る一御雇い外国人建築家の光と闇を炙り出そうという建築探偵・藤森氏の面目躍如たる講演であった。会場には100名以上の多数の正会員と賛助会員が参加し、ウォートルスの終焉の地であるアメリカ・コロラド州の町に関わる質問も会場から出て熱気に満ちた雰囲気の内にと終了した。加えて協賛の銀座商店街連合会からの申し出によりビデオ収録も行われた(連合会のホームページに掲載されている)。交流委員会では、毎年アーキテクト・ガーデンに呼応した秋と翌年の春にセミナーを企画しており、最近の傾向としては丸ビルに代表される都市再生のテーマに関するものが多い。その中であって明治初期の一建築技術者の生涯に思いを馳せて煉瓦街形成の背景と及ぼした影響を考える機会を持つことが出来たのは、新鮮かつ貴重なセミナーとなったのではないだろうか。今後も現代社会の大きなトレンドを捉えたテーマと

今回のような普段目に付かない分野での真摯な取り組みを紹介するようなテーマとをバランスよく組み合わせる企画していきたいものである。交流委員会のセミナーは、AからGに至る様々な専門分野の賛助会員と正会員のグループの日常的な活動の積み重ねの上に成り立っている。各グループの月例のセミナーも中々活発であり、正会員の最新作や賛助会員の最新工場の見学などもなされている。今後は、各グループ内の活動に留まらず他のグループや一般会員の参加もどしどし可能にしていくかどうか。交流セミナー自体も、正会員と賛助会員との交流を深めるために設立されたと聞き及んでいるが、JIAの活動を一般市民の方々に広く認知して貰い、職能団体としての基盤整備を目的とするアーキテクト・ガーデンに参加する場合は、もっと一般市民や学生が参加しやすいセミナーとする検討も必要ではないだろうか。今回の講演者である藤森先生は、知名度も高く、実行委員会でもその点論議されたが、最終的には会場の収容能力や参加費の調整が難しいということで事実上会員向けのセミナーとなってしまったのが残念であった。次年度のセミナーではその点の改善、例えば学生を無料、会員外を低額の参加費としたり、講演の概要をホームページに掲載する、といった配慮が必要であろうと思われる。最後になりましたが、会場を快く提供されたTEPCO銀座館の田口部長以下皆様の暖かいご支援があったればこそ今回の交流セミナーが成功裡に幕を閉じることが出来たと実感している次第です。この場を借りて厚く御礼申し上げます。 (株)中山建築デザイン研究所



アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

第4回建築家のメモ展



第4回CG画廊



■第4回建築家のメモ展

設計の各段階で作られる メモの連作

教育委員会副委員長 豊田 鐵雄

アーキテクト・ガーデンのイベントの一環として、前年度に引き続き第4回「建築家のメモ展」を、10月24日(木)～10月29日(火)にわたって、銀座TEPCO館6階で開催いたしました。また、10月27日(日)には建築家のメモをテーマに語り合うレビュー会が展示会場にて行われました。今回のメモ展の目的・コンセプトは従来と同じですが、「ひとつの設計の各段階で作られるいろいろなメモの連作」を歓迎する旨の呼びかけを行ったところ、16名の応募者から26点の展覧作品が集まりました。メモ展の来場者については、記帳または名刺を頂いた方は69名でしたが、一般の方など記帳されない来場者も多く、その倍以上の方にご来場頂けたと考えています。「一般の人に建築家のツールとしてのメモと実務のプロセスを広く紹介する」という目的に沿う結果となりました。レビュー会は10数名が参加して行われました。各出展者から自作品の紹介や設計手法・メモの位置づけについての説明のあと各出席者が意見を述べ合い、手書きメモ・スケッチの使い方やCADによるスケッチなどについて活発なフリーディスカッションが行われました。

〈(株)日建設計〉

■第4回CG画廊/第3回学生CGコンテスト/

第2回子どもCGコンテスト

3つのCG展を終えて

情報開発部会 天神 良久

本年度も、正会員の作品発表の場としての建築CG画廊、学生のための学生CGコンテスト、ちびっ子建築家の子

どもCGコンテストの3本立てでCG展を無事開催させていただきました。

特に学生CGコンテストは今年で3回目に向け、全回から23作品の応募があり、展示会場での講評会と賞品の授与は、随分と盛り上がりました。入賞者一覧表は<http://www2.bpo.co.jp/jia/>にて掲載しています。また、昨年度からはじめております子どもCGコンテストも、かわいらしい発想の建物、家、公園、都市などの作品が会場させ楽しい雰囲気になってくれました。しかし、建築家との交流を建築CGを利用して実現しようと考えております「建築家CG画廊」は、正会員からの出展は10点にも満たず寂しい展示となりました。是非、2003年度は多くの会員様からの出展を期待しています。ご協力よろしくお願致します。

〈(株)バズプラスワン〉

■銀座で建築相談

次なるステップへ

首都圏建築相談室 松枝 雅子

首都圏建築相談室はTEPCO銀座館6階会議室を会場に、会期中の24日から28日の5日間、午後1時から4時までの3時間 建築無料相談会を開催することでアーキテクト・ガーデンに参加。新聞の催事案内に掲載されたことも効を奏したのか、予約の申し込みも順調で、当日飛び入り6件と合わせ、24件の相談があった。通常は2人の相談担当者が、一件一時間の持ち時間で対応するのだが 開催中の26日 土曜日の朝、NHK総合テレビ「くらしと経済」の「良い家を安く買いたい! 中古住宅の上手な購入術」というテーマの番組に当相談室の副委員長が出演し、番組の最後に相談室が紹介されるということが事前にわかり、土日の相談担当員を3人に増強、受付係りも配備してスタートした。相談内容をトラブル相談と事前相談関係の対比で見ると15:9である。

アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

銀座で建築相談



思ったより事前相談が多くなっている。トラブル相談では漏水関係が6件、工事中の施工に対する不安3件が目につく。事前相談ではリホーム相談4件、中古住宅購入時の留意点などが2件、その他3件だが、この中に第三者監理の問い合わせがあったことは注目すべきことと思って良いだろう。

短い時間内に 問題の内容を整理して的確なアドバイスをするのは難しいことだ。しかしこれらの経験の蓄積は、「建築欠陥工事阻止の特効薬は専門家による事前相談である」をテーマにした次の説得力のある活動へのステップとなるはずと思っている。

〈(株)松枝雅子建築計画研究所 主宰〉

■銀座のスケッチ展

2002銀座スケッチ&海外スケッチ展

ミケランジェロ会 田嶋 成幸

昨年はTEPCO銀座館にて、今回は隣りの銀座NIKI画廊3階にて第20回ミケランジェロ会展を開催しました。銀座のスケッチ会を9月7日(土)銀座4丁目交番の周りに集まり、各々気に入った銀座のスケッチをはじめました。マジック・水彩鉛筆・鉛筆・絵具などで銀座4丁目交叉点、歌舞伎座、銀座7丁目ライオン、和光数寄屋橋界隈、車の中から見える銀座1～9丁目通り、変わりゆく銀座風情、ぎんざの新しい店、日比谷公園、新生ブランタン、薔薇の花、秋の小道などを描きました。

海外の作品として、ドイツの田舎町風景、カイザー・ヴィルヘルム教会、カンボジア風景、万里の長城、イタリアの都市などの絵画、宇都宮の長屋門の版画、写真作品として、童神興、沖縄の海、工芸品として磁器絵皿「飛天」。

スケッチの後に銀座ライオンに集まり、画評談話会を行いました。アーキテクト・ガーデン2002建築祭の

銀座のスケッチ展



テーマにあわせ「銀座のスケッチ&海外のスケッチ」を中心に会員19名の画家、写真家、工芸家の展示をすることになりました。

10月24日～29日まで作品の展示期間中は、約250名をこえる参加者がありました。展示会にあたり大勢のご協力ありがとうございました。

〈田嶋建築構造設計事務所 主宰〉

■セミナー「循環型社会の家づくり」

木造は構造から意匠まで幅広く関れるもの

住宅部会 今井 均

住宅部会は荒川幸子部会長の提案で、4年ほど前から継続しているセミナー「木造住宅セミナー・住んでみたい」(齋藤孝彦会長)にリンクして銀座建築祭に参加した。このセミナーは住宅部会と東京材木商協同組合との共催が、現在まで7回(年2、3回)継続して、後援も国と交通省、林野庁、東京都を始め9つを数える。参加者も当初より毎回70～80名と会場(通常はオゾン・リビングデザイン・センター)は満席に近い状況が続いていたが、今回もますますの参加人員であったと思う。講師陣も第1回の武者英二氏から今回の片山和俊氏、納賀雄嗣氏まで、そのテーマも「木造住宅と日本の風土」から今回の「循環型社会の家づくり」まで、木の精神性から現代経済までと、一区切りのつくところまで来たようだが、今回の銀座建築祭も含め、関係者以外のJIA会員の参加が思った以上に少ないのはどうしたことであろうか。特に木造は建築家にとっても、構造から意匠まで幅広く関われるものであることを考え、そのあたりがこのセミナーでかなり学べたはずだったということと思うと、私としては残念である。しかし、今回は住宅部会の創生期からの会員の方も思いがけず参加していただけ、大変嬉しい思いもできた。

〈(株)創建築アトリエ〉

アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

見学会+トーク「近代建築巡り」：パレスサイドビルでは林昌二さんに説明をお願いしました。屋上では参加者揃って記念撮影。



セミナー「なぜ日本の街はちぐはぐなのか」

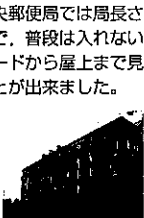


■見学会+トーク「近代建築巡り」 参加者40名 建築巡りとトーク

保存問題委員会WG委員 桐原 武志

「DOCOMOMO 20選」に選定された二つの建物、「東京中央郵便局」を出発し「パレスサイドビル」まで、皇居内コースと大手町コースの二つのコースで建築巡り。後半はTEPCO銀座館でDOCOMOMO Japanのメンバーを囲みトークを行いました。参加者40名

■東京中央郵便局では局長さんの案内で、普段は入れないバックヤードから屋上まで見学することが出来ました。



■皇居内コースでは戸尾任宏さんに三の丸尚蔵館、桃華楽堂、宮内庁書陵部など、皇居内の建物を説明していただきました。



■丸の内コースは保存をテーマの建築巡りです。



■TEPCO 銀座館でのトークパネラーは DOCOMOMO Japanのメンバー山名善之さん、渡邊研司さん、司会は兼松統一郎さん。

DOCOMOMOの歴史から現状まで、スライドを見ながら解説していただきました。

〈(株)バスプラスワン〉



■セミナー「なぜ日本の街はちぐはぐなのか」 青木仁氏をかこんだ 円卓会議

都市デザイン部会長 久間 常生

本年の企画は、昨年、一昨年の「銀座街歩き」関連とは趣を変え、都市景観に関するセミナー、それも自らが参加・研鑽するという部会員相互の共通認識から、講演会形式ではなくラウンドテーブル(円卓会議)方式としました。拡大10月定例会と位置付け、招待講師と部会員が囲み型配置で座り、その周りに参加者が囲む懇談会形式です。JIA都市デザイン部会の生の活動や議論を市民に公開し、アーキテクト・ガーデンの趣旨をも達成しようという思いでした。

著書『なぜ日本の街はちぐはぐなのか』で我が国都市景観のちぐはぐさ、課題や背景、法的な要因などを具体的に解説し改善の方向性も示唆されている青木仁氏を講師に迎え、当部会アクティブ・メンバーの一人、明治大学の小林正美氏がコーディネーターを務めました。部会員が持ち寄った美しい景観、ちぐはぐな景観をプロジェクターで対比的に映しながら、都市について日頃議論し自ら実務に携わる部会員諸氏が、行政に携わる青木氏を囲み活発に意見交換をする形で会場からも質疑・意見などが寄せられました。JIA会員、学生など幅広く会場を埋め尽くす約60名の参加を得、円卓会議形式の良さが十分に発揮されました。貴重な議論・課題は今後の部会活動に継承していきたいと思えます。

〈(株)久間建築設計事務所 主宰〉

アーキテクト・ガーデン2002建築祭・報告

セミナー「日本の前衛を再考する」
石山修武氏



■セミナー「マンション設備の改修
——マンションの生命線をどう守るか」
各マンションの抱える
さまざまな問題

メンテナンス部会長 柴田 幸夫

10月26日(土)に全電通ホールにて、170名の聴衆を集めて管理組合向けセミナー「マンション設備の改修」を行った。部会員が編集した同名の書籍をテキストとし、司会と3名の講師が実例を交えて講演した。参加者は主に管理組合理事会関係者が大半であったが、管理会社や工事関係者以外に行政関係者にも御来場いただいた。

本会員の田辺邦男が司会としてマンション設備改修の動向とセミナーの意義を解説後、同じく三木哲が「マンション設備の総合改修とトータルメンテナンス」と題して講演を行った。休憩を挟んで、スライドを交えた具体的事例を紹介しながら、町田信夫が「給排水設備の改修」を、今井哲夫が「電気設備の改修」を、それぞれ主要ポイントを分かり易く説明した。最後に質疑応答が活発に行われ、2時間半のセミナーが盛況の内に終了した。マンション改修の大きな課題となる設備改修については、今後も勉強会・セミナーなどを開催し、力を入れて行きたいと考えている。

28・29日はTEPCO銀座館6階にてマンションの無料相談会を開催した。両日各3名の部会員が5件の相談に対応した。相談者は一般区分所有者の1件以外は管理組合理事長であった。各マンションの抱えるさまざまな問題で、我々にとっても参考になる内容であった。

〈(有)柴田建築設計事務所〉

■セミナー「日本の前衛を再考する」
「小奇麗なものは美しくない」
石山修武

デザイン部会 大野 二郎

JIAデザイン部会年間テーマ「日本の前衛を再考する」第7回は、INAX銀座ギャラリーの7階会議室で石山修武の建築論が展開された。石山修武さんがスライドで、ガリボンテ川崎、現代っ子ギャラリー(宮崎)、ヒロシマハウス(カンボジア)、世田谷村などを紹介、そして最後はやはり「玄庵」で締めくくった。司会の渡辺豊和さんは、石山さんは社会とギリギリの関係で作品を作っている、一方キタナイ建築を作っているのは何故なのか? 石山修武さんは、普通の近代建築は汚いし、小奇麗なものは美しくない、ピカソも当時相当汚かったと。(ああ言えばこう言う?) 建築には普遍化はない、ただ特殊の連続があるのみである。会場から石井和紘さんは、石山さんは丹念に時代に突っ込んでいて苦勞している。かわいい柔らちゃんが敵を相手に一本背負いしているようだ。虚実ない混ぜにするのが面白い、幕の内弁当の塩板を外すように、新鮮なものと腐っているものを見せる天才だ。石山はへたくそだ、渡辺は妄言癖だ、石井はお喋りすぎて気遣いじみタప్పリ建築への愛情をタప్పリ感じる前衛建築家達の楽しい2時間であった。

〈(株)日本設計〉

即日写真コンクール「銀座を撮る」



■即日写真コンクール「銀座を撮る」

「建築家初心倶楽部の皆様」

建築家写真倶楽部会長 兼松 紘一郎

撮った写真を即プリントし、コンクールをやるという例のないアイデアを思いついたのは副部会長の加藤宏之さん、タイトル命名は日大建築写真研究会の学生諸君、ぼく達の会は建築家、建築歴史研究者や建築写真家と共に建築学科の学生もメンバーなのである。当日の参加者は49名。銀座のラボを探し巡り短時間現像プリントの段取りをつけた秋山信行実行委員長の涙ぐましい活躍が報われ、1人3点、葉書大147枚の写真が整然と掲示され、好きな写真3点にシールを付けて行くというコンクールが桐原武志さんの名司会によって行われ、会場は沸きに沸いた。

第一席は建築でなく（ずるいヨ）白い車と人を撮った佐藤実さんのtoday、4席までと写真研究会賞、部会長賞の表彰した後、特別賞として、顧問格建築写真界の大御所村井修さん、顧問の林昌二さん、メンバーでもある建築写真家吉村行雄さんが、それぞれの選定理由を述べた（まさしく建築写真論で会場はなんとも楽しい雰囲気になった）後、著作にサインをして渡されると、うらやましいとため息が漏れた。他流試合だと意気込んで参加された市民の方々、納得できたかしらん。

銀座ライオン2階の特別室で行った懇親会、案内板に「建築家初心倶楽部の皆様」とあり、またまた盛り上がった。さて次の活動は「建築写真アーカイブを考える」というアカデミックな研究会だ。 <(株)兼松設計 主宰>

■セミナー「前川國男」を見る

中田準一氏、村井修氏、 内田祥士氏の三者三様の目

事業委員会委員長 児玉 耕二

まちづくり論、環境論に話題が集まる中、JIAとして建築家を扱う企画も必要だろうとの意見からこの企画は始まった。近代建築の巨匠で、建築家協会の設立に貢献した建築家前川國男の今まで扱われなかった側面をろうとすることで、写真家村井修氏、弟子である建築家中田準一氏、東洋大助教授である建築家内田祥士氏の3氏に登場願った次第である。

セミナーでは、中田氏が前川の作品を5期に分けて説明し、空間構成の変化を解説された。村井氏は数十枚のスライドで、古くは神奈川県立図書館のルーバーの表現方法、京都会館や東京文化会館では打ち放しの外壁、また彫刻家流政之とのコラボレーションなどを紹介された。内田氏は構法的な見方を加えながら、デザインと素材や、熊本県立劇場では建築の配置と空間のシークエンスなどについて語られた。3者のディスカッションはデザインを断面や技術も踏まえて見る中田氏の目、表現のあり方としてシンプルに見る村井氏の目、コンクリートの工法や耐久性にまで及ぶ内田氏の目と三者三様の話となり、盛り上がった。アーキテクト・ガーデンにふさわしい内容であり、新鮮で非常に興味の湧くものであった。

<(株)久米設計>

地域会だより

千葉

船橋ウォッチング2002

JIA千葉 荒井 裕三

千葉地域会では「船橋ウォッチング2002」を昨年11月22・23日の2日間にわたり開催し、昨年の銚子に続いて、建築士会まちなみ分科会・建築学会千葉支所との共催により一般市民を含む総勢52名の参加を得ることができました。今回の企画は恒例のタウンウォッチングと趣を変えて東京駅からわずか20分の距離にありながら、二度に渡る埋め立ての危機を奇跡的に免れた、東京湾最奥部に残自然の干潟「三番瀬」を中心に、開発と自然保護という対極に想いを廻らせながら船橋の海岸線を散策することとしました。

22日夜10時、防寒服に身を固め船橋海浜公園から三番瀬フォーラムの皆さんの案内で真冬の海へ。東西平均4km、南北3kmに及ぶ干潟に降り立つと、360度の夜景のパノラマ。初めての風景にしばし唾然。房総半島と三浦半島に抱かれた湾奥は、水は澄み、雄大で豊かな自然の営みがありました。午前0時過ぎ、海岸で味わったアサリ汁はしみじみと自然のありがたさを感じさせてくれました。

翌朝、真夜中の三番瀬の残像が消えないうちにと、小笠尾精一氏（三番瀬フォーラム顧問）に、東京湾の環境ウォッチャーでもある漁師として、環境影響評価の研究者としての立場から講演をいただきました。東京湾の浅瀬の干拓は江戸時代に始まり、戦後の経済成長期に湾奥のほとんどが埋め立てられ、かつて三番瀬と呼ばれた広域な浅瀬も現在は江戸川を挟んだ船橋市と市川市のこの海域だけになっているとのことでした。その後のあいつぐ開発計画によりこの海域も昭和48年に漁業権放棄が決定したものの、埋め立て直前のオイルショックにより危うく命を永らえ、再び土地利用計画が策定されながらバブル崩壊と自然環境保護への関心の高まりのなかでかろうじて現在の姿が維持されているとのことでした。講演の後、小笠尾氏の案内で船橋港から船で三番瀬を巡る機会に恵まれました。環境保護の立場から三番瀬の自然の魅力を訴えると共に、科学的な裏付けを持ってその重要性を指摘しつつ、自然との共生、海岸線の再生のためのデザインなど積極的に提案し活動する氏の姿に感動を覚え、とかく開発サイドに身を置く我々の今後に大きなテーマが与えられ、夫々の立場で何が出来るのか今一度考え行動する必要性を痛感したウォッチングでありました。

〈(有)荒井設計事務所〉

神奈川

2002年を振り返って

JIA神奈川 藤本 幸充

神奈川各地の2002年を振り返って見よう。

まず横浜、サッカーワールドカップ開催にあわせ、大磯橋客船ターミナルがオープンした。JIA神奈川でも二回、工事途中の見学会を行い、完成後苦労話を「かもめの夜話」で横浜市の担当部長から聞く機会も得た。

また、馬車道の歴史的景観上行方が懸念されていた旧富士銀行横浜支店も横浜市による買取りが決り隣接するJIAの入る大津ビル、むかひの日本火災横浜ビル、と神奈川県立博物館など明治末から昭和初期の建物が保存されることとなった。旧富士銀行がその北面を見せる本町通では旧ヘルムハウス、旧東京三菱銀行、そしてつい最近 J.H.モーガンによる大澤工業ビルなどが解体され跡地にマンションが建ち始めている。

別荘地大磯でも邸宅地のマンション化がいくつか行われているが、現在駅近くの旧三井守之助大磯別荘が目される。保存要望書も出され二度にわたる見学会（JIA神奈川は後援）で特に市民の関心の高さが目だった。設計者は木子幸三郎、箱根宮ノ下富士屋ホテル食堂、日光田母沢御用邸などの設計を行っているが和洋混交のテクニクにさえを見せ内部は和室続き間であるが建具割で外観は洋館その物に見せる。

次、朗報は藤沢市から。支部保存問題委員会と連名で議会に保存陳情書提出していた旧モーガン邸、女性建築士を中心とした強力な「守る会」の方々の努力の甲斐あってついに保存が議会決定された。日本ナショナルトラストの側面支援も見逃せない。

鎌倉からは八幡宮境内の神奈川県近代美術館について。坂倉準三の設計で有名であるが50年経った建物の、今後の50年を考える「近美100年の会」を後援。八幡宮裏手の山から中心部を見下ろし近美の置かれた豊かな自然環境を満喫した。同じコースを数年前のJIA鎌倉大会でも、たどったことがあるので、思い出された方もおられるかも知れない。今回案内役を買って出たのは無論その時のJIA神奈川メンバーである。 〈(株)鎌倉設計工房〉

長野

「保存問題長野大会」の準備

長野地域会 副会長 依田 政司

長野地域会では、只今2003年2月22日・23日に長野市、須坂市において開催される「保存問題長野大会」にむけて実行委員会を立ち上げ、準備に勤しんでいるところであります。

2002年8月に、保存問題委員会と合同で意見交換会を開き、それを受け選定された担当者で最終打ち合わせを行い、私達建築家の活動を理解していただき、地域住民と共により広範で、より普遍的な保存に対する認識を共有したいとの思いから、メインテーマを「住民に支持される保存とは」としました。早速、長野地域会ではテーマに相応しい見学コースの選定や、シンポジウムの構成を検討し、関係者に協力を依頼する一方で、信州大学工学部社会開発工学科の西山講師の助言により「近代建築総覧」並びに「同追補版」に収録された近代建築の現状調査と、同時に未収録の近代建築をリストアップし、大会の資料としようということになりました。

広い長野県をいくつかの地域に分け担当者が調査し、それを「まちづくり委員会」がまとめるというのですが、これは貴重な資料集になるであろうと思います。何故かという私達が暮らす地域に、こんな素晴らしい建物が在るということを知らせる、知って貰うという意味でとても重要な役割を果たさだろうと思えるからです。

委員会で扱う問題のほとんどが、気がついたときには既に解体が計画されていたというのが実情です。

こういった資料集をもとに多くの住民に関心を持ち続けてもらい、私達がいちはやく対応できるようになれば良いと考えています。

併せて、シンポジウムのパネラー講師として、文化財登録制度創設に尽力された工学院大学助教授の後藤治先生に出席していただけるようになりました。前述したことに関連した有意義なお話が聞けるものと思います。

そんなわけで「保存問題長野大会」に多数の支部会員が参加されることを願って、長野地域会からの報告とさせていただきます。

〈(株)依田建築設計事務所 主宰〉



上：信濃毎日新聞社 下：藤屋旅館

新潟

社会との対話

JIA新潟クラブ 武藏 靖之

大字根新会長の誕生とともに「JIAを変えよう」との発言がありました。色々な意味を複合して非常に重い言葉だと思います。その一面の中には社会に対し継続職能研修による安全で安心を保全出来る提供者になること、社会にアピールすることが必要だと言う部分もあると思っています。新潟クラブではこの主旨に沿ってこの一年、出来る限り社会へ向けた活動を試みました。

定例の新潟県内大学卒業設計コンクール・JIA新潟クラブ建築セミナーの他、創作研究テーマ「歴史的遺産から現在の我々が学び取れるもの」という観点からシリーズで展開しました。第1回は6月に新潟県巻町で改装なった妙光寺住職の講演と見学会、白鳥健二氏の設計によるカーブドッチおよびカールベンソン氏の手による古民家移築建物の見学会を開催しました。第2回目は8月新潟県上越市高田で移築保存された小林古径邸を広田先生の説明を聞きながらの見学会、高田の雁木と町屋の見学会を開催。第3回は9月に新潟県でワールドカップサッカーが開催されることで出来上がった新潟市にある新潟スタジアムとその周辺のランドスケープデザインを設計者の講演会をあわせ見学会を開催しました。シリーズでの見学会では住職を始めとする方々がJIAの存在を認識してくれたようです。また、会員以外の方々も参加していただきました。引き続き2003年5月の第4回として越後平野が生み出した建築を新潟県長岡で、8月に第5回としてスライド会、10月に第6回として新潟県新発田市で足軽長屋を始め城下町のたたずまい、酒蔵などで講演会・見学会を予定しています。また、一年を通して新潟市内にある町屋の保存やセミナーの手伝い、小川邸の移築保存などに関わってきました。

新潟の街も変わろうとしています。JIA新潟クラブも変わりつつあるように思います。第1回のJIA新潟クラブ模型展も開催しましたが、今取り組んでいることは、エンドユーザーに私たち会員を知ってもらうために住宅の本を製作中ということです。2003年1月頃出来上がる予定で期待をしながら待っているところです。最後に初の試みとして、2002大会沖縄の報告会とワークショップを一会員である自宅を借りて開催しました。会員の自宅はシックハウス・サステナブルを主題に造られた建物で、見学説明会に便乗しながらの会でしたが、活発な発言で有意義な会となりました。 〈(株)鷺建築事務所〉

活動報告

11月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
1	建築相談室	保存問題委員会/CPD委員会 建築相談・プレ委員会/住宅部会	工事監理WG/月例会(茨城) 建築相談室(群馬)
2			役員会(埼玉)
5	建築相談室		国際交流基金運営委員会/低入札価格制度WG 建築相談室(神奈川)/役員会(神奈川) 交流ゴルフコンペ(長野)
6		建築相談委員会/首都圏相談室報告会 相談・委員長室長会議/住宅再生分科会	保険WG
7	建築相談室		LF懇・幹事会/環境行動委員会 教育関連統合委員会/プロバイダー部会 記者懇談会/賛助会役員会(神奈川) 建築相談室(千葉)
8	建築相談室		JIA群馬クラブ建築展(11/7~11/12)(群馬)企画運営会議 建築相談室(群馬)
10			見学会(茨城)/茨城地域会との交流会(栃木)
11		フレンスカップ大会実行委員会 建築セミナーWG/住宅部会	PPC/WG/建築相談室(神奈川)
12	建築相談室 建築セミナー	交流グループ長・幹事会 交流賛助・拡大幹事会 賛助B幹事副幹事会議/賛助C幹事副幹事会議 賛助E幹事副幹事会議/技術情報シート部会	CALS/WG 大学卒業設計コンクール委員会(神奈川)
13		アーバントリップ実行委員会 メンテナンス部会	総務委員会 会員・会費種別等検討特別委員会
14	建築相談室	保存WG/高齢者・障害者WG 家づくりハンドブック打合せ 建築相談打合せ	事業メンテ打合せ/事業委員会WG CPD研修会と施設見学会(埼玉)
15	建築相談室	総務委員会/JIAトーク実行委員会	倫理規定職能原則委員会/建築相談室(群馬)
16			建築相談室(神奈川)
17			建築相談室(埼玉)
18		建築セミナー実行委員会/HP/WG	建築家資格制度推進委員会
19	建築相談室 建築セミナー	賛助D幹事副幹事会議	建築相談委員会/役員会(千葉) あすなる見学会(長野) JIA新潟クラブ建築セミナー(新潟) 中野ビジョン委員会(中野)
20		常任幹事会 函面ライブラリー実行委員会 交流・広報部会 デザイン部会	支部長会議 研修WG
21	建築相談室	賛助A全体会議/情報開発部会 情報開発部会+賛助G勉強会 高齢者・障害者WG	建築相談室(千葉)
22	建築相談室		建築家の業務・報酬/住宅版打合せ 建築相談室+報告会(神奈川) 船橋ウォッチング(11/22・23)(千葉) 建築相談室(群馬)
25		建築セミナー実行委員会	資格制度WG
26	建築相談室	AGコアスタッフ会議	業務委員会/教育委員会 建設産業基本問題委員会/QBS報告会 PMガイドライン作成WG/PPC/WG 日光門前町会議(栃木)
27		建築相談・プレ委員会 相談・委員長室長会議	国際委員会
28	建築相談室		表彰委員会/CPD評議会
29	建築相談室		システム部会/桐蔭学園見学会(神奈川) 建築相談室(群馬)
30	函面ライブラリー実行委員会セミナー		
12月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
1			川越市制80周年記念事業展示会参加(12/1~8)(埼玉) まちづくり信毎見学会(長野)
2		フレンスカップ大会実行委員会 HP/WG	役員会(神奈川)
3	建築相談室 建築セミナー	賛助・広報部会 技術情報シート編集部会	監査/建築相談室(神奈川)
4		CPD委員会/住宅再生分科会	保存部会/賛助会役員会(神奈川)

活動報告/予定

5	建築相談室	学生デザイン実行委員会	LF懇談会全体会議/建築相談室(千葉)
6	建築相談室	保存問題委員会	選挙管理委員会/PM・CM打合せ QBS打合せ/建築相談室(群馬)
7			役員会(埼玉)
9		広報委員会	建築相談室(神奈川)
10	建築相談室 建築セミナー公開講座	広報・座談会/賛助C幹事副幹事会議 賛助C・D合同講演会	企画運営会議/建築家資格制度推進委員会 住宅用契約書WG/記者懇談会
11		アーバントリップ実行委員会 建築相談委員会 首都圏建築相談室報告会/AG全体会議 交流セミナー実行委員会 メンテナンス部会/保存WG	会員・会費種別等検討特別委員会 事業委員会打合せ/CALS/ECWG かもめの夜話(神奈川) 技術交流会・本音の会(長野)
12	建築相談室	建築セミナー実行委員会 高齢者・障害者WG	総務委員会/月例会(山梨)
13	建築相談室		QBS推進WG/月例会(茨城) 年末総会(栃木)/建築相談室(群馬) 警察大跡地利用等コンクール授賞式および シンポジウム(協賛事業)(中野)
14	プロフェッショナルスクール		沖縄大会報告会・ワークショップ(新潟)
16			環境行動委員会/PM・CMセミナー打合せ
17	建築相談室 建築セミナー	選挙管理委員会/総務委員会 賛助D幹事副幹事会議	教育事業に関する会議/建築相談委員会 建設産業基本問題委員会/教育委員会 プロバイダー開発部会/監理問題WG 研修会(群馬)/中野ビジョン委員会(中野)
18		事業委員会/編集WG	支部長会議/理事会/監査会議
19	建築相談室 JIAトーク	JIAトーク実行委員会 教育委員会	CPD評議会幹事会/教育関連事業・事業WG 建築相談室(千葉)
20	建築相談室	役員会兼CPD拡大委員会	基本政策課題統括委員会 建築相談室+報告会(神奈川)/役員会(千葉) 建築相談室(群馬)
21			建築相談室(埼玉)/建築相談委員会(埼玉)
24	建築相談室	相談・委員長室長会議	三会会長会談/倫理規定職能原則委員会
25		編集WG/デザイン部会/HP/WG	プロバイダー開発部会/記者懇談会
26	建築相談室		QBS推進WG
27			建築相談室(群馬)
2月	セミナー・事業等	委員会・部会	地域会・本部・その他
3			役員会(神奈川)
4	建築相談室/建築セミナー		建築相談室(神奈川)/CPD研修会(埼玉)
5		建築相談委員会 首都圏建築相談室報告会/JIAトーク実行委員会	賛助会役員会(神奈川)
6	建築相談室	保存問題委員会	総務委員会/LF懇・幹事会 建築相談室(千葉)
7	建築相談室		建築相談室(群馬)
8			役員会(埼玉)
10		交流・拡大幹事会 賛助E幹事副幹事会議	建築相談室(神奈川)
12	実務セミナー(PM・CM)	選挙管理委員会 賛助C幹事副幹事会議/住宅部会	役員会(千葉)
13	建築相談室	賛助B幹事副幹事会議	企画運営会議
14	建築相談室		月例会(茨城)/建築相談室(群馬) 月例会・CPD勉強会(山梨)
15			建築相談室(埼玉)
18	建築相談室/建築セミナー	賛助D幹事副幹事会議	建築相談委員会
20	建築相談室	賛助A全体会議/賛助G全体会議 情報開発部会	
21	交流セミナー+交流会/建築相談室		建築相談室(群馬)
22	保存問題長野大会(2/22・23 於:長野市・須崎市)		
23		地域サミット	
25	建築相談室/建築セミナー		研修会(群馬)
26		常任幹事会/交流・広報部会 デザイン部会	支部長会議/理事会
27	建築相談室		
28	建築相談室		CPD評議会幹事会/建築相談室(神奈川) 千葉県建築四会学生賞展示会(2/28~3/2)(千葉) 建築相談室(群馬)

イベントセミナー情報

日本工業倶楽部見学会

(CPD認定プログラム：1単位)

日時：1月24日(金)15:30から

見学先：日本工業倶楽部

定員：先着40名(詳細は後日、申込者へお送りします)

資料代：1,000円

共催：JIA関東甲信越支部事業委員会・保存問題委員会・都市デザイン部会

申込先：JIA関東甲信越支部/担当：原田 (Tel 03-3408-8291 / Fax 03-3408-8294)

JIA交流セミナー「新たな都市と建築の構築に向けて」

(CPD認定プログラム申請中)

第一部：パネル・ディスカッション17:30～19:30

建築戦略研究会の活動は最近出版された「策あり都市再生」(日経BP 社刊)において具体的に都市の再生について示唆に富む提案がなされています。今回のセミナーでは、メンバーの方に提案内容を語っていただき、代表の馬場氏にその総括ならびに今後の活動などを語っていただき、その後、JIA都市デザイン部会と都市公園の専門家も加わり、意見交換をしていきます。

コーディネーター：馬場璋造(建築戦略研究会代表/建築情報システム研究所代表)

パネラー：久間常生(JIA都市デザイン部会長) / 青木仁(都市基盤整備公団再開発部・居住環境整備部次長) / 真鍋喜嗣(建築戦略研究会メンバー・山下設計) / 田名網雅人(建築戦略研究会メンバー・鹿島建設)

第二部：懇親会 19:45～21:00

開催日：2月21日(金)17:30～21:00

受講料：正会員6,000円(懇親会費含む) / 賛助会員10,000円(懇親会費含む)

一般参加10,000円(懇親会費含む)・4,000円(セミナーのみ)

会場：グランドアーク半蔵門(東京都千代田区準町1-1 Tel 03-3288-0111) 半蔵門線半蔵門駅/有楽町線麹町駅下車

定員：150名

申込み先：JIA事務局(担当：菊地)

協賛：JIA都市デザイン部会/日経BP社(予定)

トラブルが教える設計・工事監理契約の留意点 パート2

(CPD認定プログラム：2単位)

JIAおよび四会連合の契約・約款から学ぶ「あなたは、心情派……、契約派……??」

日時：3月12日(水)18:00～20:00

会場：JIA館3階セミナー(東京都渋谷区神宮前2-8-18)

参加費：1,000円(予定)

講師：石川正三氏、松浦基之弁護士

主催：JIA関東甲信越支部建築相談委員会

申込み先：JIA関東甲信越支部事務局(担当：坪内) Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

第41回JIAアーバントリップ「湘南地域の建築を訪ねて」

(CPD認定プログラム：2単位)

日時：3月28日(金)18:30～20:30

見学先：1) 鎌倉市立御成小学校(設計：久米設計 中本俊也)

2) ECOLE DE HAYAMA 資生堂湘南研究所(設計：KAJIMA DESIGN 押野見邦英(現K/O design studio))

3) 地球環境戦略研究所(IGES)(設計：日建設計 富樫亮)

主催：JIA関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会

申込先：JIA関東甲信越支部事務局(担当：福井・原田) Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294

お申し込みになるイベントを○で囲み、Fax 03-3408-8294または郵送でお送り下さい。

・日本工業倶楽部見学会 ・JIA会員交流セミナー ・設計・工事監理契約の留意点 ・第41回JIAアーバントリップ

会員番号	氏名	所属事務所・会社名	T E L
所 属 先 住 所			F A X
〒			

省エネ法特定機器の施工 と高効率変圧器の動向



望月 良朗



三原 修一

1. はじめに

特定機器「受配電用変圧器」を織り込んだ「エネルギー消費に関する法律」(以下、省エネ法と記す)改正が、2003年4月1日から施行される見通しです。(但し執筆現在、施行日を定める政令は未発表)この特定機器「受配電用変圧器」は、エネルギー消費効率が現状品から30%低減したエネルギー変換効率約99%の世界に例を見ない最高水準の変圧器を目指したものであり、変圧器の開発と普及は地球環境保全と省エネルギーに大きな貢献を果たすことが期待されています。本文では、省エネ法に織り込まれる特定機器「受配電用変圧器」の内容と高効率変圧器の今後の動向について紹介します。

2. 経緯

配電用変圧器は、受配電設備の主要な構成機器として、低損失化、小形軽量化、高信頼性などの改善が行われてきました。近年では1998年の改正省エネ法の施行で工場判断基準のエネルギー使用の合理化目標になる等、変圧器の高効率化が更に求められるようになっていきます。

2001年には、高圧受配電用変圧器が省エネ法特定機器に追加され、高効率化のニーズがますます高まっています。特定機器は、汎用製品においてトップランナー方式といわれる現在商品化されている製品の内、最も優れている効率性能を基準とし、更に技術開発の将来の見通しを勘案するハードルの高い効率性能を求めています。

3. 変圧器の現状

高圧受配電用変圧器は、油入変圧器(写真-1)とモールド変圧器(写真-2)があります。油入変圧器は、オフィス・ビルや住宅等の建築物、小規模事業所、中規模事業所、大規模事業所の受配電用設備の中で使用され、生産台数は年間約9万台、モールド変圧器は主に建築物

の受配電設備の中で使用され年間約1万台が生産されています。高圧受電契約を結んでいる需要家72万件、特別高圧受電契約を結んでいる需要家約1万件で概略270万台が使用されていると推計されています。その交換時期は約26年のため、この中には、発生する損失が比較的大きな旧式の変圧器が概略約40万台設置されていると推計され、その変圧の過程で約2%のエネルギー消費が発生するため、省エネルギーを推進する上でエネルギー消費の少ない高効率の変圧器に交換していくことが求められています。変圧器は想定される負荷の最大で定格容量が選定されます。このため負荷の用途により運転の負荷率とエネルギー消費効率が異なり、日本電機工業会が行った変圧器の実態の負荷率とエネルギー消費量の調査では、業種別の負荷率は、工場(繊維等)が昼間、夜間共に50%以上の高い負荷率で、逆に、公共施設(図書館等)では昼間でも約20%~30%と低い負荷率で、加重平均負荷率は33.6%と推計されます。年代別変圧器の損失特性、総出荷台数、平均容量から、想定運転台数270万台のエネルギー消費量を概算すると、約165億kWh/年(原油換算約154百万kl)と試算されています。

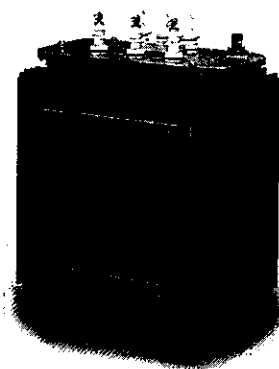


写真-1 油入変圧器

技術情報シート E-2 (電気設備メーカー)

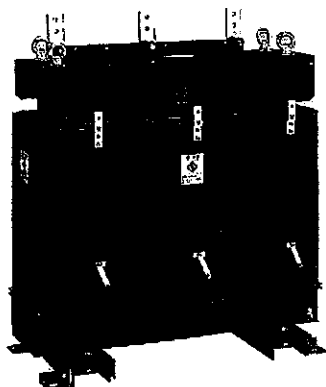
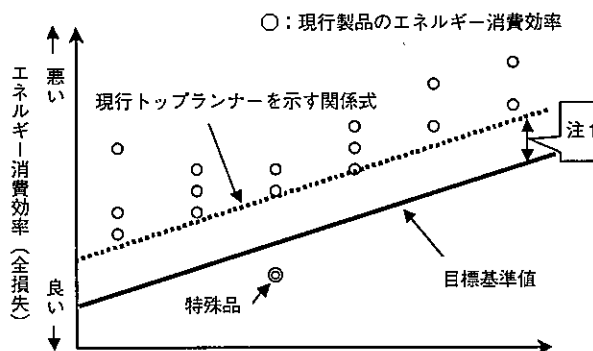


写真-2 モールド変圧器

図-1 トップランナー方式目標基準の設定



注1：技術開発等により今後想定される効率改善分 (特殊品技術の利用可能性を含む)

4. 特定機器「受配電用変圧器」の概要

4.1 適用の対象

特定機器の対象となる高圧受配電用変圧器は、より広範囲の高効率化を求める主旨から容量、電圧などの仕様がJIS等で規定された標準仕様のみでなく、非標準仕様の製品(準標準)も含めています。その中で例外的には、標準仕様の代替品として使用できないもので、需要が極めて少ないもの、特殊用途品を除外品としています。

表-1 適用範囲と除外機種

適用範囲	油入変圧器、モールド変圧器 単相 10～500kVA、三相 20～2000kVA 高圧 6kV、3kV、低圧 100V～600V
除外機種	ガス絶縁変圧器、H種乾式変圧器 スコット結線変圧器 モールド灯動変圧器 水冷又は風冷変圧器、多巻線変圧器

4.2 エネルギー消費量の目標基準値

変圧器のエネルギー消費効率の目標基準値は図-1に示すトップランナー方式により、基準負荷率において現存する最も優れた変圧器の特性と材料技術の改善見通しから目標基準値を導いています。

表-2 エネルギー消費効率の目標基準値

区分	機種区分	目標基準値算定式
I	油入・単相・50Hz・500kVA 以下	$E=15.3 \cdot (kVA)^{0.696}$
II	油入・単相・60Hz・500kVA 以下	$E=14.4 \cdot (kVA)^{0.698}$
III	油入・三相・50Hz・500kVA 以下	$E=23.8 \cdot (kVA)^{0.653}$
III-2	油入・三相・50Hz・500kVA 超過	$E=9.84 \cdot (kVA)^{0.842}$
IV-1	油入・三相・60Hz・500kVA 以下	$E=22.6 \cdot (kVA)^{0.651}$
IV-2	油入・三相・60Hz・500kVA 超過	$E=18.6 \cdot (kVA)^{0.745}$
V	モールド・単相・50Hz・500kVA 以下	$E=22.9 \cdot (kVA)^{0.647}$
VI	モールド・単相・60Hz・500kVA 以下	$E=23.4 \cdot (kVA)^{0.643}$
VII-1	モールド・三相・50Hz・500kVA 以下	$E=33.6 \cdot (kVA)^{0.628}$
VII-2	モールド・三相・50Hz・500kVA 超過	$E=24.0 \cdot (kVA)^{0.727}$
VIII-1	モールド・三相・60Hz・500kVA 以下	$E=32.0 \cdot (kVA)^{0.641}$
VIII-2	モールド・三相・60Hz・500kVA 超過	$E=26.1 \cdot (kVA)^{0.716}$

4.3 目標基準値における負荷率

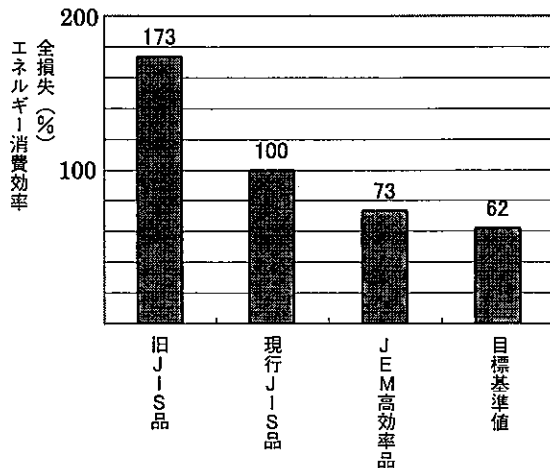
変圧器の全損失は、無負荷損+負荷損(100%負荷率)×負荷率²で計算されるように全損失は負荷率により変化するため、目標基準値を定める上で、負荷率の適切さが重要です。日本電機工業会の負荷率の調査結果では全体で平均等価負荷率は33.6%、特高需要家は40.5%、高圧需要家は28.0%となっています。一方変圧器二次側の負荷力率は、通常0.80~0.85であることから変圧器の実質負荷率は12%~19%高く、特高需要家の実質負荷率は36%~56%程度、高圧需要家の実質負荷率は19%~43%程度であると推計されます。基準負荷率が低すぎたり高すぎたりした場合、損失の増減率が大きく変わるため低負荷率基準の設計は高負荷率のユーザに、高負荷率基準の設計は低負荷率のユーザに省エネルギー効果が十分発揮されません。従ってより広範囲の負荷率に対して効果的に損失削減を図るためには、負荷率は中間的な値を選定することが必要です。これらの理由より目標基準値を定める負荷率は、下記に設定されています。

500kVA以下：40%
500kVA超過：50%

4.4 改善効果

日本電機工業会の調査では、1999年の出荷実績の基準負荷率におけるエネルギー消費効率は目標基準値に置き換えた場合30.3%の改善が推定されます。目標基準値を平均的な機種で現行基準と比較すると旧JIS規格値64%、現行JIS規格値38%、JEM高効率変圧器特性基準値15%の改善になります。

図-2 エネルギー消費効率の比較



4.5 目標基準値達成の目標年度

目標年度はできる限り早期の目標達成の実現を前提に省エネ化のための技術開発期間、設計変更及び生産準備期間、製品及び材料・部品の在庫処理と更新を踏まえて設定しています。目標年度までに高圧受配電用変圧器の適用対象は、原則として全て目標基準値を達成することが義務付けされます。

目標年度	油入変圧器	2006年度
	モールド変圧器	2007年度

4.6 表示について

省エネルギー機器の普及をより促進するため、製品を選ぶ際の性能比較の方法として、省エネルギー基準を達成しているかをカタログ等に品名、構造、定格仕様、規格、製造業者名のほかにエネルギー消費効率(全損失(W))と基準負荷率の記載の義務付けが来年度施行される予定です。

5. 今後の高効率変圧器の動向

98年の省エネ法改正を契機に省エネ対応の変圧器のニーズが高まり、各種の高効率変圧器が製品化されてきました。配電用変圧器は、効率特性の上でJIS規格に準じた汎用品、JEM特性基準値に準じた高効率変圧器、更に高効率を目指した超高効率変圧器に大別されます。後者2機種の配電用変圧器の比率は、全体の約4%を占めるに至っています。これらの変圧器の選定に際しては、適用する変圧器の負荷率を把握し、負荷率での損失に基づくランニングコストを試算、インシヤルコストを加えた総合コストを比較する手法が取られています。しかしながら比率が高まるにつれ需要家別に損失レベルの異なる変圧器を仕分けて供給することは極めて困難であり、今後は省エネ法の目標基準値をクリアした特性の変圧器に集約した高効率化が図られるものと思われます。

技術情報シート E-2 (電気設備メーカー)

6. おわりに

特定機器「受配電用変圧器」は、高効率の達成を目指す一方、低効率の旧品の更新、設置スペースの縮小に対応するコンパクト化も製品開発の課題となっています。この実現の上で高効率材料の採用、加工の高精度化が必要となるため、増加費用が発生しますが省エネ効果による使用者の費用対効果は大きく、使用者の理解とニーズに合った変圧器の早期の開発が必要です。エネルギー消費効率の高い製品の普及のため、使用者の選択と運用、理解促進、製造事業者の技術開発と製品の開発、ならびに政府による普及支援の取り組みが必要となります。

参考文献

(社)日本電機工業会「省エネルギー法特定機器「受配電用変圧器」の判断基準

望月 良朗

株式会社 東芝 社会インフラシステム社
三重工場静止器コントロールセンタ部
TEL : 0593 - 76 - 6086

三原 修一

株式会社 東芝 社会インフラシステム社
施設システム技術第一部
TEL : 03 - 3457 - 4320

Q&A コーナー

Q 1 : 判断基準達成の為の技術的課題は？

A 1 : 特性については鉄心材質と巻線材質及び加工技術の開発と漂遊損失の発生解析と低減です。
変圧器の更新等の対応の上では、寸法縮小が課題となります。

Q 2 : 判断基準未達品をメーカーが販売することはあるか？

A 2 : メーカーは加重平均での目標値クリアが義務付けられており、未達品を販売することは困難になります。

Q 3 : 価格が上昇した場合、購入のための補助金制度はあるか？

A 3 : 現行での支援制度(優遇税制)に加え、今後より普及に即した制度導入を要望することになると思います。

Q 4 : 判断基準の達成品は、いつ頃市場投入されるのか？

A 4 : アモルファス変圧器、超高効率変圧器は基準達成品ですが、標準品に対し寸法大、重量大の課題があります。
対応品は今後メーカー各社が開発に入ることになりますので、2003年以降より製品化されると推定します。

Q 5 : Q 9 : ユーザーに対しての法規制はないのか？

A 5 : 省エネ法工場判断基準に基準達成品の使用を織り込むことが検討されることとなります。

Q 6 : 判断基準を定めた規格はいつ発行されるか？

A 6 : 日本電機工業会規格が2003年1月発行を予定しています。

Eグループ担当委員 金子 襄、相野谷誠志、飯田信幸、小室春夫、仲田 潔
交流委員会ホームページアドレス <http://www.jiakanto-koryu.org/>

<賛助会員各グループ構成一覧>

Aグループ(A1-仮設・土木・杭、A2-コンクリート・鉄筋、A3-鉄骨)、**Bグループ**(B1-防水、B2-左官・塗装・吹付)、
Cグループ(C1-ALC・PC・押出成形セメント板、C2-石、C3-タイル、C4-屋根・金属、C5-建具・ガラス・プラスチック)、
Dグループ(D1-エクステリア・内装工事、D2-家具、D3-インテリア・材料)、**Eグループ**(E1-電気設備施工、E2-電気設備メーカー、E3-搬送設備)、
Fグループ(F1-空調衛生施工、F2-空調衛生メーカー、F3-エネルギー関連)、**Gグループ**(G1-CAD・情報処理、G2-教育・出版)

本部支部役員の声

締め切り迫る 会員増強キャンペーンにご協力を

本部・支部総務委員会 阿部 一尋

JIAは今年設立15年目を迎えました。建築家資格も実現に近づいています。この際大いに会員を増やして建築家を世にアピールしようと会員増強キャンペーンをしています。

と、これだけなら結構ですが実質は会員の減少が続いている、会費が集まらない、会員が高齢化しているなどの現実があるのです。本部・支部とも運営費に苦戦しており、経費削減と事業収入確保に努力しているところです。

それはそれとして、このキャンペーンは特にJIAの将来を担う若い会員を増強するチャンスと考えています。30代、40代の仲間を増やしましょう。JIA本部に会員増強推進本部（河野進副会長を本部長に）を設置し、全国の10支部長が推進本部員となっただいただいでいます。JIAをアピールするリーフレットも作成しました。

キャンペーンの特別措置として入会金3.6万円を6千円に減額しています。どうぞお知り合いの仲間へ声をかけてください。2月末の理事会で承認された上で、3月中に入会金・会費の納入が必要です。

関東甲信越支部の増強目標は165名です。12月10日現在の達成数は84名であり、達成率51%です。北海道や沖縄支部では100%を超えています。よろしくお願いします。関東甲信越支部では何といたっても東京地域での増強が行われる必要があります。増強成功の鍵は東京地域の支部会員の皆様にあります。

支部の増強具体策として地域会への割り振り、支部役員・委員長・部会長に分担いただいて、新入会員の紹介のご協力をいただいております。それだけでなく、何といたっても会員1人が1人の紹介をいただくことが重要です。そうすれば支部で2000人は増えるのですから。

JIAとしては会員増強の第二弾として会員種別、会費見直しを検討中です。来年度以降も会員の皆様から建築家候補者の発掘をお願い致します。

入会資格は、一級建築士免許取得後3年以上の設計監理業務従事者などです。詳しくは事務局へおたずねください。入会申込書に正会員2名以上の推薦をお願いします。

(株)市浦都市開発建築コンサルタンツ

編集後記

■寿司屋のカウンターで寿司を食べたいとは誰でも思う。新鮮なネタ、職人さんとの楽しい会話、少し高くても満足感はその上回る。しかし回転寿司も最近はなかなかのもので、予算もわかりやすいし、並みの寿司屋を上回ることも多くなっている。どっちがよいという話ではなく、そのときの気分や予算にあわせて選べばよいのだが、例えば住宅を建てる場合には、多くの場合一生に一度か、多くて二度しかないということが悩ましい、ということかな。(F.K.)

■今の特集記事は座談会あり、アンケートありと意欲的な取り組みをした結果、通常の誌面作りとは相当勝手が違いました。3倍以上の長さがあった座談会の記録を編集。一般の方々や建築家へのアンケートの実施、集計・分析など手間ひまがかかる作業を、基本的には素人である数名のメンバーに事務局、それに僅か1名のプロの編集者で構成されている当編集WGで実現できた陰にはIT、デジタル化の賜物とつくづく感じました。(T.K.)

編集：社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部広報委員会

委員長：高木恒英
副委員長：米澤正己、森岡茂夫
委員：荒川幸子、加藤文男、郡山 毅
須永信一、関野宏行、武田有佐
寺山 実、深川良治、松原和哉

編集長：森岡茂夫
編集委員：加藤文男、郡山 毅、高木恒英
深川良治、真鍋善嗣、原田譲治

発行人：菊地良一

発行所：社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
TEL 03-3408-8291(代) FAX 03-3408-8294

©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2002

JIA関東甲信越支部関連サイト一覧

(社)日本建築家協会本部 (JIA) <http://www.jia.or.jp>
JIA関東甲信越支部 <http://www.jia.or.jp/kanto>

交流委員会 <http://www.jiakanto-koryu.org>
保存問題委員会 <http://www.archiweb.com/jia-hozon>
JIA建築セミナー <http://www.jia.or.jp/kanto/seminar>

住宅部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/jutaku>
情報開発部会 <http://www2.bpo.co.jp/jia>
都市デザイン部会 <http://www.jia.or.jp/kanto/ud>

中野地域会 <http://www.eva.hi-ho.ne.jp/jia-nakano>
群馬地域会 <http://www6.wind.ne.jp/jiagunma>
長野地域会 <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga>
神奈川地域会 <http://www.jia-kanagawa.org>
西東京地域会 <http://www.jia-nishitokyo.org>

PROFESSIONAL FIT by HIGANO

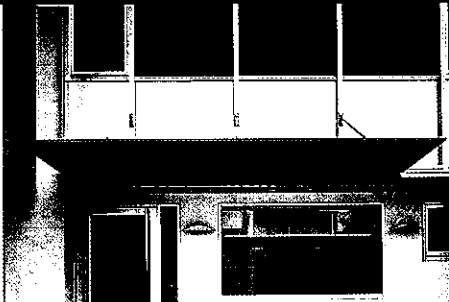
PROFIT® 庇

プロ・フィット ひさし

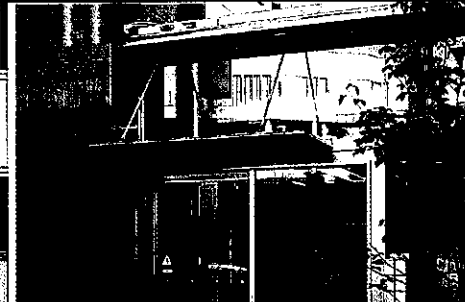
PFH1500 Series



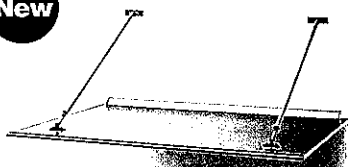
PFH1200 Series



PFH900 Series

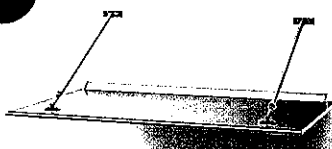


New

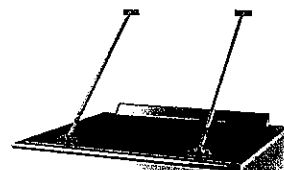


出幅1500mm

New



出幅1200mm



出幅900mm

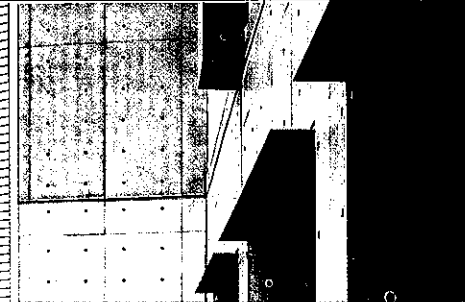
PFH600 Series



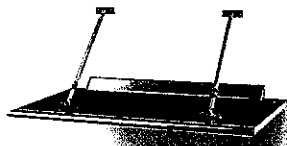
PFH450 Series



PFH200 Series



New



出幅600mm



出幅450mm



出幅200mm

日ざしや風雨を防ぐだけでなく、建築デザインの一部として必要不可欠なひさし。“プロ・フィットひさし”は、パーチセルハニカムパネル(コルゲートコア)の採用により、さまざまな建築物と調和するシンプルな造形、軽量、高強度、耐久性を実現したアルミ製ひさしです。ひさし先端部の雨樋や裏側に雨水がまわり込まないための雨垂れ防止溝、堅牢なウレタン樹脂塗装仕上げなど、隅々まで配慮が行き届いています(PFH1500、1200、900、600、450シリーズ)。また、ひさし取付け後、裏

面からビス等がはいっさい見えないスッキリ設計です。PFH1500、1200、900、600シリーズは、ステー(斜材)の傾斜角度調整機能で施工後のひさしの傾斜角度を自由に調節することができます。出幅1500mmから200mmまで6シリーズ、ワイド寸法も1000mmから10m*とあらゆる要求に対応するワイドなバリエーション。斬新なデザインと機能性に貫かれた“プロ・フィットひさし”は建築設計の可能性を一段と広げます。

*PFH1500・1200・900・600・450シリーズのワイド10m、PFH200シリーズのワイド6mまでは特注生産となります。詳しくはカタログをご請求ください。



グッドデザイン商品
意匠登録済



“ものづくり”の喜びで未来に貢献
株式会社ヒガノ

お問い合わせはプロ・フィット事業部
TEL048-931-3321 FAX048-931-7332
本社・工場 〒340-0002 埼玉県草加市青柳3-24-7
http://www.higano.co.jp e-mail:info@higano.co.jp